新女界

第四卷第十二號目次

○公平と同情（一）……安井哲子
△朝鮮の女子教育と外國婦人（一二）……西森いは子
○兒童の宗教々育に就て（一四）……宮川壽美子
△小なれど大（二〇）……大塚楠男
○獨逸の禁酒事業（二五）……村上幸多
△今回創設の通俗教育館（二九）……記者
○油繪の話（三四）……久米桂一郎
△美趣と人格（三七）……金子白夢
○讀書の趣味（四〇）……海老名みや子
△旅順まで（四六）……中安親子
○十字架の夢（五七）……松本雲舟
○隨感（六三）……
△趣味ある贈物（みや子）△「絶えざる」といふ事（宇佐美敬子）△母の心（金矢藤子）△故鄕雜感（みさを）△乳と母親（柳八重子）△女子と個性の發達（記者）
○時事其折々（六九）……記者
△社友となる辭（七二）……小橋三四子
○道德上の奴隷（五）……海老名彈正

東京新人社發行

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

千代田香油

美しきお髪をお望の方は香のいゝ千代田をお召し遊ばせさつぱりとして奥床かしく人様にまで快感を與へます

定價 七十錢 卅五錢 廿五錢 十七錢

ヌツン石鹼輸入元
山岸三之助
東京……馬喰町
大坂……鍛町

牧羊者カード

（ひつじかひ）

全國日曜學校大會紀念として發賣せる日曜學校用新式カードにして幼年科及高等科の男女生徒達の意向に適する樣彩色體裁等に充分なる注意を加へ五十枚共各異なりたる聖句を刷込みたる高尚優美の品なれば御注文の上續々御試用あらん事を翼ふ

●縦三寸二分 横二寸三分
●十種取合五十枚入壹包二十五錢郵税二錢

東京小石川區武島町二十五
發賣元 便宜堂商店
振替貯金東京六三三〇番

特約販賣店
○東京銀座敎文館●東京尾張町警醒社書店●東京有樂町基督敎書類會社●東京神田小川町普光社○大坂北久寶寺福音社書店

便宜堂商店目錄 御入用の方へ二錢切手又往復はがきにて申越あれば進呈致候

新ラシイ女は萬年筆の所有者也

オノト萬年筆
オリオン萬年筆

郵税各金十二錢

目錄御申越次第送呈

自金六圓以上
至金六十五圓
金飾付 二圓八十錢
金三圓廿五錢

新らしい教育、新らしい道德、新らしい修養、新らしい趣味、新らしい職業、新らしい家庭の婦人は皆萬年筆の愛用者也。新らしい大正の日記や、家庭帳簿や、手帳や葉書や、新らしい萬年筆を用ひて、愈々新らしかるべき也。

萬年筆用「アテナ」インキ
二オンス入
金二十錢

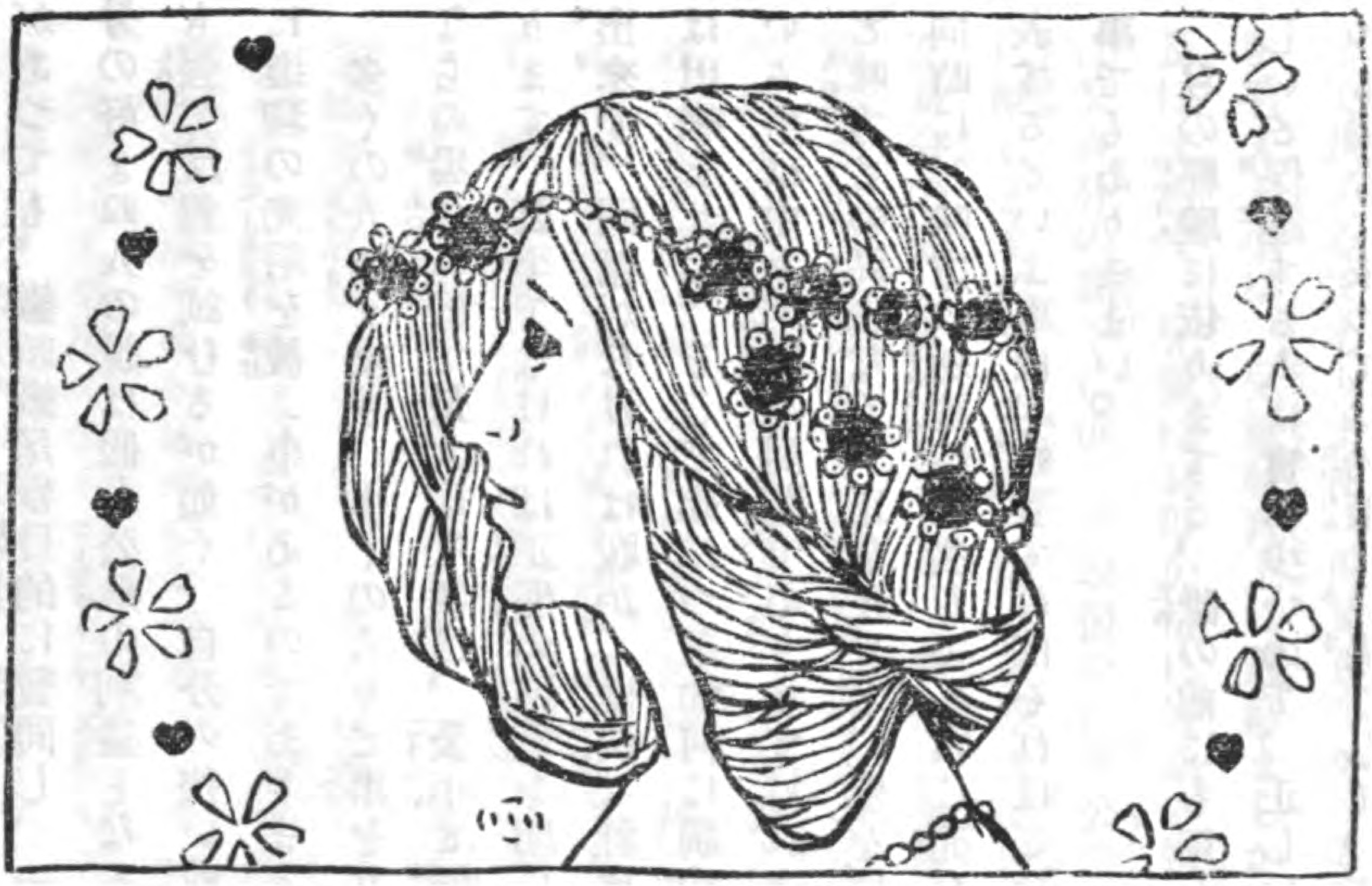
丸善株式會社

東京。大阪。京都

日本橋區通　東區博勞町　三條通麩屋町

「かれこれと迷ふこと勿れ
完全無缺なる大學目藥あり

大學目藥は帝國醫科大學病院の處方に基きし貴重の製劑にして●はやり目●トラホーム●星目●のぼせ目●かすみ目●血目●疲目其他眼病一切に驚くべき奇効あり●全國各地有名の藥店にあり



大正元年十一月一日發行　第四卷第拾壹號

公平と同情

安井哲子

感情は婦人の特有で、之れあればこそ人の妻たり母たるの資格を有するものであるといつてもよい位であります。併ながら此貴い感情が餘りに強く働く場合には往々道理に背いた判斷をする者で、理性の餘り發達せぬ吾々婦人か、時として物の輕重を誤つたり、或は又不條理な判斷を下すことのあるのは卽之れがためであります。理性の勝れて感情の冷やかな婦人は、婦人としての優しさ懷かしさを有ちませんけれども又一方に於て理性が弱く感情の餘りに強い婦人も取扱ひ難い者であります。彼感情的な母親が吾子の喧嘩にやつきとなつて、其理非曲直を正しもせず、相手の子供にどなりつけ、之れがために親と親との爭となる例は常に下流社會に見る例でありますけれども、之れと同樣の出來事は之れ以上の社會に於ても亦往々經驗する處であります。卽吾子の愛に溺れて居る母親が屢子供の我儘を通させて、却つて其召使を抑へたり或は又親しい人に對しては一から十まで同意を表し、假令其

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

人が道理に背いた事を云つても、或は又卑劣な行動があつても、徹頭徹尾盲目的に賛同し、一方には自分の好まぬ人の説は假令公衆の利益となるべき事でも强て反對を試むるが如く、自分の狹い感情のために道理の光明を被ふ事があるのであります。

　多くの人々と交り、多くの人々と事を共にせねばならぬ場合に於て最大切な者は、公平と同情とであります、公平でなければ正邪の區別を明にする事が出來ず、同情がなければ暖かく愉快な社會を作る事は出來ません。そこで此二つを如何に調和するかといふ事は中々困難な問題でありますけれども、唯敵と味方との區別なく、正を正とし、邪を邪とすると同時に、味方は勿論敵に對しても常に充分の同情を表するといふ事は、修養すればそれほどむづかしい事でもありますまい。

　私の經驗に依りますと、誰の前にも正しい者を正しいと保護する人は實に少いので、正しいと知りつつも場合に依つては冷淡に見過ごして、不必要なる關係を免れやうとする人が多いのであります。之れがために此世の中を心細く感ずる者も少くはありません。此狀態が終に國民の間に推し及んで、强國民と弱國民との間に時として不公平なる取扱や裁判の行はるゝのは、外國住居をする者の幾多實驗する所であります。私は曾てシヤムに於て同地の支那人や馬來人のやうな東洋人と歐米人との間に、屢此不公平な取扱ひを實驗しまして、少からず慷慨致した事がありましたが、人道を重んずる文明國人でも、時としてはやはり此の如き行動を敢てする事があるのであります。

　公平は一方に於て決して同情と衝突致しません。正しからざる事を正しからずと判斷しても、之れを行つた人に同情し、又之れを憐む事は何等不都合のない事であります。即其罪を惡んで其人を憎まぬ意味であります。然るに吾々婦人は理性の缺乏と感情の强いために、相手に依つては理非を顚倒して不公平な判斷をする事があり、終に坊主を憎んで袈裟に

まで及ぶのであります。母としてかゝる偏つた心情を有する事は、兒童敎育上に最好ましからぬ影響を及ぼす者で、兒童は其母が常に好惡の情に依り、或は又身分の高下に依つて取扱ひに不公平がある事を目擊しますから、正邪の區別を學ぶ機會を失ひ、且又身分の低い人々に對して、我儘に振舞ひますので同情といふ美德を養ふ機會をも失ふのであります。又かゝる心情を有する婦人が、何か公の事業に關係致します時には、常に好惡の感情に依つて黨派を作り、其事業全體の利害を顧みざるに至るのであります。婦人團體の仕事に裏面の運動だの秘密だのあるのは時々實驗する所でありますが、其運動は團體の幸福を圖るがためでなく、多くは自己の感情を滿足せしむるがためで、之れがため誠意誠心其仕事の進歩改善を圖る事が出來ぬのであります。

　近來は又學校の訓育が餘り振はぬためか、學生中破廉恥な行をなす者が次第に多くなつてまゐりましたのは實に悲しむべき事で、現に此間もある地方の中學生が修學旅行の際、多數商店に集つて土產物を買ひながら、混雜に紛れて物品をごまかしたと云ふ事が新聞に見えて居りましたが、兩親や敎師の指導を離れて、自身に此位の善惡を判じ得る年齡に於てかゝる事を强てするといふに至つては、未だ充分に道德敎育の基礎が出來て居らぬ者と認めることが出來るのであります。將來有用な國民となるべき青年達がかゝる狀態にあるといふのは、實に寒心すべき事であります。家庭や學校に於て子供や青年が、陰に惡事を敢てするといふのは其遠因は、恐らく父母や敎師の公平ならざる取扱ひと、且又同情の缺乏にあるのではないかと思はれます。卽何事も正直に相談する彼等に對して、私情を棄てゝ公平に正邪を判斷してやる代りに、無意味の拒絕や抑壓を與ふるために、希望と元氣とに充ちて居る彼等は不滿に堪へず、終には尊長に對する正直な相談を止めて、陰に我意を充たさうとするやうになるのであります。彼等は此時よりして不正直の成功を實驗し、益正しい

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

判斷から遠ざかつて行くので、長者は不知不識恐るべき習慣の養成をなしつゝあるのであります。

故に吾々は吾身のためのみならず、自取扱ふ所の兒童や青年のために、理性の發達と同情の養成とを圖らねばならぬと思ひます。吾々は幸にして正しき神であり且又愛なる神に仕ふる者でありますから、其犯すべからざる正義と、測るべからざる慈愛とに感じて、之れに學びます時には、自然に公平と同情とを調和して偏らざる行爲をなす事が出來ませう。社會に不良なる少年や青年が、益增加しつゝある今日苟も其家を思ひ、其國を思ひ、且又有望なる年少時期にある彼等を思ふ時には、吾々は何とかして、此身を彼等救濟のために捧げたいと願ふのであります

而してかゝる事業を初むる前に於て、先自身を省みる事は、吾自身が不知不識彼等を不良に導く遠因となつては居らぬかといふ事であります。現時は精神を失つた幾多の慈善事業や救濟事業が行はれ、救濟者自身に罪を犯す社會でありますから、眞に依賴すべき人を見出す事が甚困難であります。此際に於て吾々は各自靜に反省して、益吾身の短所を補ふと共に、なるべく周圍に善良なる影響を與へたい者であります。

大いなかな言や

「父よ若しみこゝろにかなはゞこの杯を我れより離ちたまへ、されど我が意のまゝをなすにあらず、唯だみこゝろのまゝになしたまへ」。大いなるかな言や、何等の拋擲、何等の歸依、何等の從順、何等の信樂何等の安住何等の法音。こゝに基督教在り。否一切宗教の秘決在り、眞諦在り。こゝに人生の最大煩悶と人性の「可能」の超自然的實現と在り。こゝに神人最崇高の和解在り。こゝに最も深刻なる戰ひと最も光榮なる勝利と在り。こゝに世界勢力發展史の縮寫在り。こゝに大自力と大他力との融合在り。こゝに最も深き意味にての贖罪の福音在り。――綱島梁川

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

道徳上の奴隷

海老名彈正

そは我れ内なる人に就いては神の律法を樂めども、我が肢體に外の法則ありて我が心の法則と戰ひ、我を虜にして我が肢體のうちに居る罪の法則に從はするを覺れり。あゝ我れなやめる人なるかな、この死の體より我を救はん者は誰ぞや。是れ我儕の主耶蘇キリストなるが故に神に感謝す。羅馬書七の二二―二五

△道徳時に人を束縛す

道徳の權威は最も尊重すべきものにて、彼れ此れ批判すべき限りでない。道徳に依つて一身も修り、一家もとゝのひ、一國もおだやかに、世界も平和を維持することが出來る。道徳は古來より祖先の遺訓聖人の道、又は天啓として尊重せられた。モーセの律法に之を守るものは生くべしとあるやうに、人は之を實行するほど幸福なることはない。然れども此道徳が人に幸福を與へ、悅樂を與へずして、却つて人の重荷となり、束縛となり、壓制となるは最も悲むべきことではなからうか。斯くなれば、人は道徳に由つて幸福を受くるにあらず、却つてその奴隷となつて呻吟せねばならぬやうになる。いま人がその奴隷となる悲むべき路行を辿つて見やう。

△外部よりの命令

社會に生れて來た人は何人を問はず、外部よりの命令により一度は必ず育てられねばならぬ。支那には聖人の道あり、印度にはブラマの法あり、イスラエルにはモーゼの律法あり、日本には皇祖皇宗の遺

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

訓ありて、誰れにても一度はその權威の下に訓育せられねばならぬ。動物の境涯より進化し來つた人はどうしてもこの道德上の權威を遵奉せねば立ち行かぬのである。人の生れつきは古人が云うたやうに、惡といふ譯ではなけれども、心から喜んで此道德の要求に從ふものは少くない、父母あり、敎師あり、君主あり、社會ありて、この道德の勵行を促すのである。銘々の都合上よりすれば、道德の要求に從はない方が便利と思はるゝ時がある。故に道德の要求と自己の要求とが衝突せざるを得ない。若し夫れ自己の要求を立てゝ、道德の要求に從はざれば、父母敎師、君主、又社會より罪人視せられ、排斥せらるゝが故に、社會に於ては到底自己の存在を失ふに至る。いやおうなしに道德の要求に從はざればならない。是れは道德上の奴隷ではなからうか。

△遂に僞善を生む

又この道德は社會の事柄が複雜になればなる丈、細かになつて來る。聖人の五倫の如きは極めて單純であつて、誰れにも守らるゝ平易の道德と思はるゝなれども、親子の間柄も親しみばかりではすむまい支那のやうに進步しない國ですら、父母祖先の仕來りばかりでも行くまい、況んや進步の社會に於ては事々に新しくなる、子の意見が據所なく親の意見と違うてくる。男女の間柄にも好不好がある。從來の仕方によれば、この好不好を計算せずして夫婦を成り立たせやうとする。こゝに不自然の結婚が成り立つのであるから、色々の不都合が生うじて來る。この不自然に從ふことを果して道德であらうか。君臣の間柄も長幼の間柄も種々入り込みたる事情が出來てくる。その細い事を一々追究して行くと、道德が眞に面倒なものとなる。この面倒なる道德上の規律が人心を壓迫し來るときは、道德ほど苦痛なものはない。そうなると勢い道德は表面の形式に止つて、裏面は之と違ふことをなさなければ、到底堪へ得らるゝものではない、形式的道德は即ち僞善であり、虛

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

僞である。この形式的道德の配下に僞善的生活をなすは、最も悲むべき道德上の奴隷ではなからうか。

△嚴肅なる神の觀念

然るにこの道德が敬虔の至情と結び付いて來ると唯聖人の道といふばかりでなく、祖先の遺訓といふばかりでなく、更にその意義を深うして神の命令となる。その時は各自の良心が神の聲と自覺せられ、聖人の敎訓が神の命令となつて來るが故に、道德の權威は最早絕對となる。この道德の要求に從はざるものは、獨り聖人の罪人にあらず、祖先の罪人にあらず、國家社會の罪人にあらずして、實に天地の罪人となる。人生の吉凶禍福は神が人類を賞罰し給ふものと考へられ、天變地異は神が惡人を罰し給ふ恐るべき刑法と認めらるゝに至つては、道德の權威ほど恐るべきものはない。人は欺かば欺かるる事もあるべし、神は斷じて欺くべからず。然らば自省力の增加し、良心の聲が明確となると同時に、道德は獨り見るべき社會の法則にあらずして、見えざる心法となり、神の照鑒を仰ぐべきものとなる。神は吾々の心膓を搜索し給ふが故に、一念一慮悉く皆神の審判を受くべきものたるを疑ふことは出來ない。此の如く人の精神が向上すればする丈、愈神の律法を嚴格に守らねばならぬやうになる。所謂薄荷茴香の十分の一をも捧げざれば、心中狗狹しき所あるを自覺する。安息日に蚊一疋をも殺すは神の律法を犯すもの、父母の忌日に蟲一疋をも殺すは佛の戒律を破るものと恐縮するやうになる。千萬の戒律は一々我が瑣末の行を批判する。我は到底繁雜なる道德の要求に堪へない。道德は我に取つて苛酷なる主人公となる。去りとて眞面目に熱心して瑣末の戒律を守らんと奮勵すればする丈、安心がせられなくなる。故に熱中すれば熱中する程愈道德の奴隷となり、愈奴隸の苦境に陷るのである。

△道念と私慾との戰鬪

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

是れは形式の道德と眞面目の心情との關係であるが、各自の念頭に浮び來る邪念妄想と良心の要求との衝突に至りては、更に之れよりも甚しく實に深刻なるものがある。邪念妄想は恰も農家の蠅の如く群集して來る、いくら之を掃ふても來るのである。しかも遂にその繁に堪へずして、そのなすがまゝに一任すれば、良心は我れの怠慢を譴るのみならず、我れが邪念に征服せられたるを憤る。人心は不思議なものであつて、貪る勿れとの戒律に接すれば、之れに反抗の氣合を生うじ、強ちに貪つて見たい考を起すのである。道德を聞かせられない間は、無邪氣にて送り來りたる可愛らしい童子も、一度道德を聞かせらるれば、反つて之に對して抵抗を試み、却て邪念を增加し來る。この邪念と戰ひ之を征服することゝ容易の業にあらず、若し幸に之を征服し得たりとするも、喜んで凱歌を奏せんとするに、脚下既に傲慢の不德は我を捕へて居る。いはば前門に狼を防ぐことを得るも、後門に虎が襲ひ來るといふ次第にて、到底戰爭に疲勞して元氣を失ふ外はない。

道念が微妙となり鋭敏となり威嚴を帶び來ると同時に、私欲私情は愈その勢力を逞うして來る。道念も我にあり、私欲も我にあり、彼れと此れとの戰鬪は結局我れと我れとの戰鬪に外ならぬ。しかして大義名分は良心の主張にあれども、其の實力は私欲に存する。この良心と私欲との戰鬪を實驗するものは大抵良心の主張を是認しつゝ、私欲の欲求に從ふのである。故に道德の要求は更に嚴格となり、我は道德の奴隷たるのみならず、道德の罪人とならねばならぬ。道德の權威を承認致しながら、之に違反するは罪人である。而して道德の罪人はやがて神の罪人である、到底神より來る榮光を見ることは出來ない此の如き心裡狀態に居るものには、神の戒律も聖人の敎訓も祖先の遺訓も國家社會の道德も各自の良心も神の命令も又神それ自身も我を壓服する否壓倒する所の權威となる。假令我れ之に從ふとも到底その奴隷たるを免れない、況んや之に反するに於てはそ

の罪人たるを自白せざるを得ぬ。然らば道徳は人に取ては最も忌むべきものではなからうか。聖人の教訓も祖先の遺訓も神の律法も人を苦境に陥るゝものにして、斷じて之を救ふことを得ない。然らば聖人の敎訓も祖先の遺訓も神の律法も無用の長物たるのみならず、甚だしく人を禍ひするものではなからうか。古人が聖人生れて大盗起り、聖人死なざれば、大盗止まずといふたが、若し夫れ人生を福ひせんとするならば、是等聖人の敎訓、祖先の遺訓、神の律法を破壊すべきではなからうか。人が自由を得自主の身分となるには、之を奴隷にするものゝ權威を奪ふことではあるまいか。人は自から自由たらんと欲し、自主たらんと願ふて、飽くまで道徳の權威に違反しつゝあるではなからうか。然らば自主たらんとするは則ち罪惡の子となる所以ではなからうか。道德の奴隷たると罪惡の自主たると孰れか最も願はしきことであらうか。天國に於て神の奴隷たらんよりは、寧ろ地獄に落ちて罪惡の自主たらんとは、最も男兒らしい願ひではあるまいか。然れども是れ寧ろ我を肉慾の奴隷となすものであつて、更に憐むべき苦境に陥るのである。自から破滅を招くものである人生は果してこの二途より外に行くべき途はなからうか。

△自主の修養

こゝに驚くべき修養が發明せられた。一體道徳を作り、道徳の權威を承認するものは、我が心裡に存する良心である。之れあればこそ忌むべき善惡の差別も生れて來た、之れなければ何も頓着すべき善もなければ、又惡もない。人心を二分して善惡となし一元を分ちて二元とするは人の迷ひである。宜しく是等の差別を超越して、善惡一如と觀ずべし、一面よりは知見を啓發して善惡觀を破り、一面よりは良心の聲を押付けて沈默せしめやうとする、善惡の情感の如きは、元と是れ無明の然らしむるものなれば何處までも抑壓を加ふべきであると、三年の正坐、

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

六年の坐禪を凝らして、遂に良心を癡鈍ならしむること強ちに不可能ではない、此修養を眞面目に實行し得るものは、私欲をも殺し良心をも殺し、高く自然を超越するのである。然れども此の如くして全く外物の誘惑を脱却せんと欲するものは、人間そのものをも殺さねばならない、少くとも人間の一大部分を撲滅せねばならない。既に良心と私欲とを征服して社會的生活を脱離したるが故に聖人の敎訓もなければ、祖先の遺訓もなく、又神の律法もない。之は人生の絶對的否定である、驚くべき否定である。之は手足を切斷し、耳目鼻口を切斷して自主を贏ち得たるものといはねばならぬ。その勇氣は眞に賞すべく、その忍耐は眞に愍むべきことなれども、その贏ち得たるもの果して何程の價値を有するであらうか內容なき一種の存在ではなからうか。この貧弱なる自主の存在よりは、寧ろ豐富なる奴隷の生涯の方が價値あるではなからうか。肉慾もなく良心もない生涯は苦痛を免れたるものには相違なけれども、亦面白いこともなからう。奴隷の苦悶は左ることながら良心をも殺し、物欲をも殺してまでも、此苦痛を脱して益ありとは思はぬのであらう。世には苦痛に堪へずして自殺するものがある。奴隷の苦痛に堪へずして、良心を殺し、物欲を殺すは、取りも直さず自殺に外ならぬ。良心もなく物欲もない生活は、虚無恬淡の生活であつて、鶴や龜の壽命と同じやうなものである。何も面白い難有い生活とは思はれない。

△果して撰ぶべき道如何

若し夫れ奴隷生活の外この虚無恬淡の生活のみならば、人生は如何したら價値あるであらうか。道德の權威の下に窮屈な活氣のない生活をするより外はなからうか。虚無恬淡は睡生夢死を去ること遠くない。左らば寧ろ放蕩兒の生活を擇ぶべきであらうか是れは一種の自然主義である。然れどもこの方法では良心がその偉大なる權威の聲を放つて來ない。しかのみならず自然主義的生活はその爲すが儘に一任

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

していけば、自然の能力すら發育して來ないのである。又良心は到底滅却し得べきものでもない、何時か盛にその恐るべき要求を主張する時がある。彼は債權者となつて我をはたる。又人生は自然の欲求を滿足させたばかりで飽き足るものではない。放蕩兒が大飢饉に出逢つたやうなもので、自然の欲求を滿足さする丈にては結局大飢饉を自覺するのである然らば如何にすればよからうか。肉慾の生活も結局は厭世となり道德の生活は遂にその奴隷たるを免れない、然らば虚無恬淡の生活に入るべきか。是れは眞に抽象的理體の生涯である、然らば是等三種の生活の外に果して活路はないであらうか。自然的生活の終局は厭世の悲劇を演じ、道德上の奴隷の生活も大煩悶の悲劇に終り、左りとて虚無恬淡は睡生夢死の生活に終る、悲劇もなければ、亦悦樂もない、人生の自殺に外ならぬ。我等如何にして是等憐むべき境涯より免れ得るのであらうか。パウロ曰く「是れ耶蘇キリストなるが故に神に感謝す」と。耶蘇の誕生はこの新生活の誕生である。こゝに人生の一大紀元が開かられた。基督の救主たる使命はこの新しき生活を開かられたことに存する。

ルナン氏耶蘇傳より

古より最も深切に神を了得したる人々、即ち釋迦牟尼、プラトーン、聖者ポーロ、アシシのフランシス、及び聖者オーゴスチン（その蹉跎生活の或期間に於ける）の如きは超神論者なりしか、凡神論者なりしか、如是一個の疑問は無意義也。神在の物理學的及び形而上學的論證は此等の偉人と全く何の關する所もなかりしなるべし。彼等は神在を自家の裏に感じたり。神の眞の子等なる此一大家族の中にて吾人は耶蘇をその第一位に推さゞるを得ず。耶蘇は何等の幻像を有せざりき、神は彼れ自らの外にあるものとして彼れに語らざりき。神は彼れの裏にありき。彼れは神と同在を感じ、而して彼れみづからの心裏より父に關する一切を打ち出でたり。彼れは神との不斷の交通によりて神の懷裏に住まひぬ。而して彼れは神を見ずして默識せり。而して其のこれを默識するや、復たモーセの霹靂及び燎熾や、ヨブの天啓的暴風や、希臘古賢人の神託や、ソークラテースの靈覺や、乃至マホメットの天使ガブリエルを藉るを要せざりしなり。吾人は又耶蘇に於いて尊者テレサの想像及び幻覺に類したる何等のものをも發見せざる也。自己を神と一也と宣したるソフイの狂熱も亦全く彼れの知らざりし所なり、耶蘇は曾て一度も我れは神なりとの自大褻瀆の言を發せしことあらず、彼れはみづから直接に神と交はりぬと信じたり、彼れは自ら神の子なりと信じたり。嘗て人心に存したりし神の最高意識は耶蘇の意識即ち是れ也。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

朝鮮の女子教育と外國婦人

在朝鮮開城ホルストン女塾　西森いは子

「前略」十一月誌上に御記載の朝鮮の女學生、實地その任にある身の一きは趣味深く拜見仕候。誠に拙き筆なれど、當開城にある宗教學校の內容をいさゝか御通知申上度候。

當地は古よりわが國と深き關係これあり候事は御承知の通りにて、高麗時代の宮都とて、四方は山に圍まれて、朝鮮語にては松都と申候名のみにても、如何に昔の偲ばるゝ所なるかを御察し下され度、當ホルストン、インスタッユールは米國婦人ボルストン、カンフエレンスよりの寄附にて建設せられ、南メソヂスト、ミッションの管轄の下に有之候。教師は三人の米國婦人と十餘人の朝鮮人男女、日本人の私とにて、百五十人の女生徒これありその中九十人は寄宿舍にて、[illegible]米國婦人等も共に起きふし致し居候。校長はミス、ワグナルと申し、八年前恰も日露戰爭の折、仁川沖に露艦ワリャーグなどの沈沒せる折、仁川港に上陸され、爾來當地にて女子教育の爲めに盡され、いまだ年若く候へども、實に偉大なる婦人にて、世にいふオールドミスなる氣質なく、寬大にしてよくしまり、その責任を忠實に盡し、且つ常識の圓滿に發達せる理想の婦人に候。一度當校を訪はれ師に接せられし方にして、不快の念を抱きし者これなく、實に實に宗教の力のいかに偉大なるかを思はれ候。さて二年前合邦となり、教育の方針一變いたし規則も總督府より發表せられ候。こはもとより朝鮮人によく適合いたしたる規則と存じ候も、日本人に非らずして、その校の方針を一朝にして一變いたすはなか／＼困難の事に候にも拘らず、師は進取の

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

氣象に富める婦人とて、斷然從來の方針を一變して全く日本の敎育趣意に合せしめんと努力いたさる。又申さるゝには從來は遙々米國婦人來り、二三年間語學の勉强に苦しみ、實地に働らき感化を及ぼすには數年を要したり、されど今よりは日本の信仰强き婦人の、よき感化に遇ふべき時となりぬ、以後は本國傳道會社に米國婦人の渡鮮を求めず、日本婦人の與へられん事を願ふと。姉妹方よ我れ等は先きに英米婦人より深き感化を受けしもの、今新らしき同胞の爲め、これ等のよき感化を分ち與ふは當然の義務に候はずや、米國に比して日本よりは遠方と云ふ程にもあらず、同じ愛あり、情あり、信ある同胞よ、願くは主にありて强く起ち、共に御國の爲めに盡さまほしき事に候はずや。母國にあるキリスト敎徒諸姉、此處に新しき同胞の爲めに盡しつゝ私共を記憶せられ、温き御同情の祈りを加へられん事を願ひ上候。

校舍の設備は内地のそれと異る所なく候。一つ美しき事よと感せらるゝは四階(半分三階)のいと靜かなる一室に、四方の壁にはマリヤ、クリスト、その他の宗敎書、或は聖句掲げられてあり、こは申す迄もなく祈りの室にて、生徒等は悲しき折も、喜びの時にもこの室に來り、中央の机上にある聖書を讀み、祈りを捧ぐるにて、夜の爲には燭臺もありて、いとゆかしき所に候。數年前新渡戸先生渡臺せられ臺北赤十字社の階上にて、去華就實と題して演説遊ばし、日本の女學校に泣き室のなきは殘念なりと申されし由記憶致し居候。そは祈りの室の意なりし事と、今更ながら深く感せられ候。もし先生に當校を參觀していたゞかば、この室は第一に賞讚せらるゝ事と信じ居候。時々靜に生徒等の出入いたすを見受け申候。何卒深き御同情を朝鮮女子の上に垂れさせ給はん事を願ひ上候。「下略」

兒童の宗教教育に就て

宮川壽美子

△教育は人力のみにては不可能なり

私は子供を持つた經驗がありませんから、保護者或は監督者としての經驗から、兒童教育に關する私の感じました事を一つ二つ申上げませう。

私は父がなくなりましてから、母と共に弟を監督し又兄の子供を依托されまして、夫れを育てました。尤も何れも中學時代の少年であります。元來日本では子供と云へば、一種の變な考へが伴ふて居りまして、之を可愛がるのはよいが、其程度をこえておもちやとし、只無暗に愛して、夫れで平氣で居らつしやる方があります。之れは誠に危險なことであつて兒童の將來にとり之れ位不幸なことはありません。そこで之を愛するに程度があり、嚴格にするにも程度があります。つまり子供にも人格を認めて之を育てねばなりません。しかし之れは仲々困難なことでありまして、とても我々不完全な人間には遺憾なく出來ることではありません。私は深く之を信じて居りますので、兄の子供を育てる時には、いよ／＼自分の責任の重且つ大なるを感じまして、どうしても之は自分一人では駄目であると自覺いたし、兄に向つて「兄さん今度あなたの大事なお子供さんを預るにつきまして、私はどうしても、不完全な私の力では駄目でありますから、神樣と一緒になつて神樣を

模範として育てたいと思ひますが、如何で御座いますか、宗教的の教育は如何で御座いますか」と熱心をもつて申しました、兄は「夫れは萬事お前に任せるのだからお前の考へ通りにやつてくれ、私にはお前が最善と思ふ所をやつてくれるなら遺憾はない」と申しましたので、私も安心して、私の信ずる所に從ひ絶對の神にお願ひして二人の少年を育てる方針をとりました。

△神に依る生活

私は兒童教育の最も重要なる點は何よりも先づ此宗教的の教育にあると思ひます。卽ち絶對善の神樣に我愛する兒童をお預けして、彼等に絶對善の神樣を吹き込み、神樣を一生の友として、神樣の立派な御性格を其中に養ひ、一朝社會に出た時にこの神の御性格を學ぶ心掛けが、常に彼等を勵まし唯に個人として完きのみならず、社會公共をも益すると云ふやうに育て上げるのが、教育の本務であると深く信ずるのであります。殊に之から兒童は成長すれば、男子にせよ女子にせよ、父母の膝下に居るわけには參りません。朝鮮支那は愚か米國でも英國でも何處にでも出かけて行かねばなりません。其時に當り父母たるものは我兒は何處に出しても安心である、如何なる誘惑にあふとも大丈夫であると、枕を高くして安眠するやうに我子を育て上げねばなりません。之をするにはどうしても其子に神樣を紹介して彼等が神樣を手本とし、自分の足らぬこと、至らぬことを自覺する樣に、彼等に深く神の觀念を吹き込んでをくのが肝要であります。斯く申しまするならば皆さんは、宮川は耶蘇だからあんな事を云ふと思つて心の中でお笑ひになるかもしれませんが、夫れは皆さんがまだ子供を遠く手放しておやりになつた御經驗がないからであります、若しそう云ふ場合に立ち到りますれば必ず我國のために非常に心配いたし、私の今日の話を思出しになることゝ信じます。若しそう云ふ場合に御子供さんが、本當にシツカリした

信仰をお持になつて、お父さんお母さん、私は如何なる誘惑の中に入るも大丈夫であります。私は神を信じて居りますから、神を友とし神の御心に反する行ひは斷じて致しませんと、立派な決心を見せますなら、其時の親の氣強さは決してたとへられるものではありません。夫れと反對に思想堅固ならず、確固たる信仰もなく、友人次第で善くもあしくもなる樣な性質の子供を遠地に送る程、親にとりての心配はありますまい。私は兄の子供を監督しまして、中學から高等學校を卒へさせ、東京の大學に止まることの出來るやうに祈つて居りましたが、丁度試驗前に病人などがありまして、少々缺席などもいたし其ため遂に福岡に參らねばならぬ事になつた時、初めは自分の不行屆から試驗の成績に影響した事を悔い實に〱斷腸の思ひをしましたが、何とも致方がありません。扨て亦愈々福岡に行くと云ふことになりますと、今度は異なる意味に於て非常に心配いたしました。此子が彼地に行つてどうなるだらう、土地はどう云ふ處だらう、友人はどんな人が出來るだらうと思ひますと、心配で〱たまりません。そこで私は神樣にお祈り申しまして、神樣の御保護を祈り又本人に色々と豫ての敎訓を聞かせました。處が本人は、「叔母さん、私は斷然神樣を信じます、神樣に賴り、神樣を友として勉強します。そうして決して御心配をかけるやうな事は致しません」と立派な決心を示してくれました。私は此時ほど嬉しく心強く感じた事はありません。世の中に神と偕なる生涯ほど正しく、美はしく又自分にとりて氣強い生涯はありません。私は兒童に神樣を知らしめ置くことが彼等の將來の幸福なるを信じて疑ひません。

△人の自覺を促す所以

又神を信ずることは同時に自分の足らぬことを自覺する所以でありまして、卽ち謙遜の德を養ふ所以であります。御承知の通り謙遜の德は德中の德でありまして、謙遜は寧ろ凡ての德の基、又成功の秘訣

かと思ひます。又社會の一員として暮す上にとりまして謙遜は尤も大切なる事でありまして、謙遜のない所には進歩もなく向上もありません。人もし立派な生涯を送らんとならば第一に要するものは謙遜であります。不遜なる人、傲慢なる人は決して人と共に生活する事は出來ません。古來偉人と仰がれ聖賢と云はるゝ人は皆謙遜の人で、大なる成功者も英雄も又一面謙遜の人であります。而して眞の謙遜は神を信じ己の足らざるを自覺するにあらざれば得らるゝものではありません。私は日本の歴史をよみまして彼の那須與一が壇の浦にて扇を射る所を見ます時に、深く此謙遜の美徳を味ふのであります。初め彼の扇を射る樣に命せられたるものは與一でもなく其兄が撰ばれたのですが、兄さんが病氣のため、與一に當つたのであります。其時、與一は辭退しましたが、どうしても聞入れられませんので、仕方なくお受けを致しました。而して、彼は弓矢の神に祈り、「分けても下野國何々の氏神」と云つて謙遜の態度を以て神に祈り、神明の加護により扇を射落したとあります。若しも之れが、自分は下野に名高き弓取の名人であると心誇り、大威張りで威丈高に扇を射やうものなら、決して當りつこはありません。彼が何處までも謙遜にして、自らの力を頼まず、豫て信ずる氏神を念じ、實に自分は下手である、自分には出來ないけれども、神樣の力によりてどうぞ射落させ給へと祈り心を澄ませて射たから、見ん事當つたのであると思ひます。何事も同樣でおれがやる、おれがやつて見せると威張る人には眞の成功はありますまい。自分は足らざるものである、自分は至らぬものであると謙遜し、朝夕神樣を手本にしなければ、人は其德を完うすることは出來ません。故にどうしても子供の時から此の神樣と云ふ絶對善の方を紹介する必要があります、御承知の如く、子供の時は精神がまだ發達して居りませんから、心が誠に清い美はしいのでありまして、子供の時は善にもなれば惡にもなります。此大切な時代に善い事は善い、惡い

事は惡いとよく教へ導きますれば其精神は生長發達と共に其人を支配しまして、遂には如何なる境遇に於ても夫れに支配されず、却て之を支配する力となります。夫れと同じく幼少の時より絕對善の神樣を御紹介してをきますれば周圍の事情が如何なる場合でも、決して之に打まける事はありません。之れからの日本人は男女を問はず海外に發展せねばなりません。神を信じて立派な人格を作り上け、日本人の往く處は、そこが淸まつて來ると云ふ樣にならねばなりませぬ。

△英國の家庭と宗教

英國の家庭は此點に於て實に偉いものであります彼等は實に行屆いたもので箸の上げ下ろしにも子供に神樣を覺えさせるやうにつとめて居ります。例令ば食事の時には皆が食卓についた時お母さんは「神樣今日も御飯を下さいまして有難う御座います。どうぞ貧乏な人達にも私共に惠んで下さる樣に御飯を惠んで下さい。アーメン」とお祈をなさいます。又彼地では子供さんは六時半に休ませますか、私は彼地の家庭によく出入しましたが「宮川さん、子供の休む處を御覽なさい」と申しますから「どうぞ」とお願して、見ましたが、少さい三つばかりの赤ん坊は自分で本當に祈られませんから、お母さんが代て祈つて、神樣があなたの側に何時もいらつしやるから、大人しくお休みと云へば、何も云はずに靜かに休みます。又少しばかり言葉を辨へる樣になれば自分から祈りますか「神樣、父を惠み玉へ、母を惠み玉へ、宮川さんを惠み玉へ」とあどけない言葉で祈るのを聞きますと、淚が出ます。又九時半の鐘がチリン／＼と鳴り出しますと、皆休むのでありますが、此時はお父さんもお母さんもお坊ちやんもお孃さんも女中も皆一室に集つて一所に聖書をよみ、祈りをなして夫れから休むのです。左樣でありますから、彼等の心には深く／＼神と云ふ觀念がしみ込んで、造次も顚沛も其心を放れる事はありません。而

して此家庭に於て幼い時に父母と共に神樣にお祈りをした事が常に心の中にありますから成長して或は遠國に留學をしても、殖民地に行つても、今頃弟や妹がお母さんお父さんと共に兄さんをお惠み下さいと祈つて居るかと思へばそこに皆一所に居るやうな心地がして、淋しいとも何とも思ひません。何處に往つても、神樣は偕に居らつしやる、其上家郷では私のため皆がたえず神樣にお祈りをして居ると思ふから、益々力を得て、奮發するのであります。之れ英國民の今日の如き大發展をなした原因であると思ひます。英國の世界に於ける發展を單に物質上よりのみ見るのは早計と云はねばなりません。又私共が銀座に物を買ひに行きましてよく聞きますことは、之れは舶來ですから、慥でありますと云ふ言葉であります。之れは何を意味しますか、舶來品は堅固で品質がまさつて居ると云ふことであります。此品質の優つてをると云ふのは何故でありませうか、之即ち其背後に誠實と云ふ尊いものがあるからであります。當座をゴマかして估らんかなを主義とする製造者にはそう云ふ品は出來ません。身を使用者の地位におきて、何處までも誠實に構へた品が、舶來として尊重されるのであります。此誠實の後ろには何がありませう。云ふでもなく神樣があるのであります。

△之保護者劈頭第一の注意

斯く考へ來りまするならば、一個人にとりましても一國家にとりましても神を信ずると云ふことは非常なる尊い事でありまして、且幸福なる事であります。今日世の父兄方は一般に幼稚園にやり、小學校にやり更に中學、高等、專門の學校を勉強させれば夫れで人物は出來るやうに思つて居られますか、夫れは思はざるの甚しきものであります、今日の教育は此の精神教育、即ち絶對善の神樣を紹介すると云ふ事は全く除外されて居りまして只智識上の教育を施すのであります。此の缺陷は家庭に於て補はねばなりません、之れ私が保護者としての注意の劈頭に宗教々育を申上げた所以であります。（文責記者に在り）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

小なれど大

大塚楠男

▲お父さん其御禮に

或る日曜日の晩、お父さんが其二人の子供を膝の上に抱き上げて、其朝日曜學校で如何な事を聞いて來たかと尋ねて見た。お父さんは宗教に關つてゐる人ではなかつたが、妻は誠に敬虔な人であつた。二人の子供は交る／＼エス樣が人間に對する愛心から遣してくれた天國の美しい家に就いて、聞いた儘を語り出した。少さな方の女の兒が、お父さんの顏をマジ／＼と見入つてゐたが、突然「エス樣が私共にそんな美しい家を下さるには、如何か私共を愛してゐて下すつたに違ひない、お父さん、其代りに其禮に貴君はエス樣を愛してゐらつしやいますか」と云ひ出した。夫れから暫らくは三人の間に主の試みや苦しみに就いて談話が始まつた。其時再び少さな女の兒は「お父さん其代りに貴君はエス樣を愛してゐらつしやいますか」と同じ質問を繰り返した。いよいよ十字架の話に進んだ時も、三度び女の兒は「サアお父さん、エス樣を愛してゐらつしやるか」と尋ねた。

何と思つたか、お父さんは突然二人の子供を膝から取り除けて、室から出て行つた。大方常ならぬ感情を子供の目から隱さうとしたのであらう。其後此お父さんは或る牧師に告白して云ふには、「私は之れ迄隨分有力な說敎も聞きましたが、此時程強く感じ

た事はありません」と、而して此お父さんは之が動機で基督教信者になつたと云ふ事である

▲今晩から集に出るぞ

二人の女の兒が各々少さな兄弟と連れ立つて、午後の日曜學校から歸り路をひそり話、

「お父さんも今夜の大人の組の會にいらつしやればいゝにね」

「如何すればいらつしやるでせう?」

少さな男の兒が口を出して

「斯うするさいゝ、皆でお祈りをするサ

」だつてお祈りをしやうにも、善い場所がないわ

「それぢや、お父さんがめつたに來ない客間がいゝ、僕は納屋の方に出で見張りをしてゐやう。

相談が決つて二人の女の兒は室の内に入つて跪坐いて熱心に祈り始めた

丁度其祈りの眞最中、百姓なるお父さんは野良から歸つて來た。何時もならぐるりと納屋を廻つて家に入るのだが、其日に限つて眞直に客間の方にやつて來て戸を開けたが子供は靜かにして

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

ゐて常の樣に駈け寄つて來ない。お父さんは默つて見てゐたが、素通りしては行けぬやうな氣になりながら、兎に角室を出て納屋の方に行つて見ると、其所にも亦枯草の束の上に、男の兒が熱心に祈りを捧げてゐる。その兒が枯草から滑つた時、お父さんは溜らず、其手で子供の頭を抑へて「おゝ俺の爲めに祈つてくれるか、お父さんも今晩から教會の集りに出るぞ」

▲お父さんはお幾つ

之は上流社會に列する一紳士の告白

私は日曜の午前にストーブの傍に坐してゐましたが、日曜學校から歸つて來た私の子が、私の傍によつて來て、何か重大な事件でもあるやうな樣子で、ジッと火を見詰めてゐました、身體をふつたり肩を動したり、其樣子が、何か言はうとして言ひ切れないと云ふ風です。そして私の顏を見上げながら「お父さんの年は幾つ」と尋ねます

「五十六サ

「お祖父さんの死んだのは幾つでした？

「六十歳だよ

「そんなら、お父さん、あなたは信者になりませんか。

「いや、ならうと思はんよ

「然し信者になつた方がいゝですよ、お祖父さんが死んだ六十歳迄待つてるには、年月は幾らもありませんよ、私はねお父さん、エス樣に任かせたら非常に仕合に感じます

と云ひながら私の側に接近して來て、切りと基督を愛せよと願ふのです。私は何度となしに說教は聞きましたが、ストーブの側の子供の言葉程感動させられた事はありませんでした。

▲小な家を貸して下さい

七歲になるシカゴ日曜學校の女生徒が著しき信仰的仕事をなしたのを、ムーデーが非常に感心して感

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

る人に語つてゐるが、其話はかうである。
其子の父は當時軍隊に入つて戰場にあつた。遇々悲報あり、父は敵彈のために斃れたといふを聞いて母は悲嘆にくれ、其二人の遺兒を抱いて如何ともする事が出來なかつた。一二日の後地主が地代を請求に來たが、貧乏な寡婦は地代處か、今となつては自分の手一つでする針仕事以外には何等の所得がなくそろ〳〵寒くなつて來る冬の準備さへも出來ないと云ふ事を語つたが、地主は無情にも、仕拂の出來ない者に貸して置く譯には行かんから、早速立ち拔いて呉れと申し渡した。地主が歸ると、可憐な母親は椅子に身を抛げてワッと泣き出した。四歳になる末の子は、母親の傍に走りよつて
「母さん、神樣は何でも御願するものは下るんだね？
「左樣サ、信じて御願すればね、然しそれが善い事でなければいけません
「だつて家の內にゐる事は善い事ぢやないの？
「左樣だらうね」と母親の言葉はたゆたふ
「それぢや私は行つて御願して見やうかしら
「お前が望むなら御願して御覽
四歳の女兒は次の室に行つて膝まづき祈り始めた、母親の耳には次の言葉が聞えて來る。
「神樣。あなたは私のお父さんを取つて行つて終つたし、そして母さんは地主に拂ふお金がもう一文もありません。吾々は家の內に寢る事が出來ませんから、凍えて死んで終ひます、何卒神樣、私共に小さな家を借して下さい。
之が終ると母親の處に驅けて來て、
「母さん泣く事はないよ、神樣は吃度聞いて下るわ
確かに祈禱は答へられた。信者の友人達は夫の戰死を傳聞して、種々心配の末遺族の生活の道を講じてやつた。其後母親は度々泣いて此事を語つたと云ふ事である。

▲一冊の本と讃美歌

拜啓、十二年以前お許様某々處の集會にて御講演なされ候節、妾は當時六歳に相成候娘と共に毎夜參會いたし御講演拜聽仕候者に有之候が、確か第三晩目の事と覺え居候が、御講演の末尾に「若し此の中に一緒に神に祈る事の出來ぬ父や母を有する子供があるなら、兩親の讀み物を上るから、私の處においでなさい」と云ふ意味の御言葉有之候。妾の娘は即座に立ち上り、進み出てゝ一冊の本を御許様より頂戴いたしたる事有之候。其時御許様は、其書を是非父親に讀むるやう、父親のそれを讀める間はよく祈禱をなし、且つ其本に印刷致しあり候美しき讚美歌を歌ふ可き事を懇々娘に御訓示ありし事に候。

父親の晝飯に歸宅いたし候節、キャリー（娘の名に有之候）は其本を待つて走り寄り、庭に出て自分に其本を讀み聞かしくるゝ樣切願いたし候ものから夫も其望みに任かせ候處、其朗讀の間キャリーは御教訓通り「天にゐます吾等の父よ」との祈を繰り返し居候。其夜は夫は常の如く娘と家に止まり、妾は一人教會に出席致候。翌晩も妾教會にまゐらんとせし際、試みに夫を誘ひ申候處、多忙の故に拒み申候尤も夫は多忙なる職業に從事し居る人にて、且つ道德堅固を以て知られ居たる人に候。最後の日實に妾の驚きと喜びを感じ候事には、夫が最後の日に妾の傍に坐し說教を聞き居たる事に候。說教後吾々信者は暫時未だ信者たらざる人のために其室をあけ、他室に退き申候。其末信者會に於ての最初の告白者は實に妾の夫にて候ひし。之は唯に私のみの驚きに止まらず、公には話さぬ人を以て有名なりし父の事なれば、皆々の驚きは非常に大なるものに有之候ひき其後父は教會に於ける熱心なる働き手に御座候、而して常に好んで云ふ處は「幼き兒彼等を導く」との一言に御座候。（ハムモンドより）

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ビール國の稱ある獨逸と其の禁酒事業

村上幸多

△アルコール中毒部の設置

酒害の如何に甚だしいものであるかといふ事は、今日はもはや一般に知れ渡つて居るので、これを說くよりも私は今後は人々が禁酒事業及これに伴ふ矯風事業に一層注目せられんことを希望する。元來禁酒事業、矯風事業等の發達して居ると否とは、一國の文明の程度を計る尺度と思はれる。文明國に於て開かるゝ展覽會、博覽會等には、禁酒、矯風事業に關するものが多く陳列せらるゝを見ても、如何にこれ等の國がその事業に腐心しつゝあるかを知る事が出來る。昨秋ドレスデンに開かれた衛生博覽會には特にアルコール中毒部といふ一科が設けられ、こゝには獨帝國の衛生局、統計局及び各大學から、アルコールに關する研究材料の調査せられたものが澤山に出品されて居つた。かやうに官衙大學等に於て、アルコールに就て注意して居り、出品された事は、大に注目を要する事と思ふ。

△表面より見たる獨逸の現狀

飜つて獨逸の現狀を見ると、さすがにビール國と云はれる丈けありて、ビールを盛んに飲み、國民はビールに飽き足らず、葡萄酒、ブランデー、または日本の泡盛の如きシナ・ズスといふ強い酒を盛に飲んで居る。殊にをかしく思ふのは、料理屋等に行くともし飲み物を取らなければ、何割増といふ事が書い

である。飲み物は酒やビールに限つた事ではなく、コーヒーでも紅茶でもよいのであるがビールを取るのが一番安上りである。コーヒー一杯十二錢五厘もするのが、ビールならば一杯七錢五厘位で濟む。それ故勢ビールを飲むやうになる。またその料理が一般に鹽からく出來て居つて、ビールを自然要求するやうになる。かやうにあらゆる方法を用ひてビールを飲む事を寧ろ奬勵して居り、表面より觀察すれば禁酒、矯風事業はいづこにありやと思はれる有樣である。然しそれにも拘らず、ドレスデンの博覽會のアルコール中毒部には、澤山の貴重な材料が出品せられて居つた。自分はそれを見て、ドレスデンの博覽會にアルコール中毒部を特に設けた事が、獨逸の今日の進歩を來せる一つの代表的のものであるとつく〴〵感じた次第である。

△治療及相談所の活動

獨逸の禁酒事業は、表面より見れば、一向何の勢力もない樣であるが、盡して居る事は古く、凡そ三百年前より開かれ、至る處に禁酒會員を有して居りその數凡そ二萬に上つて居ると云ふ。その外アルコール中毒患者の治療院諸所にあり、また停車場附近には禁酒會附屬のミルクホールやうの休憩所がある私がこれ等の事業の中で一番感じた事は小さな町にもアルコール中毒患者の治療及び相談所の設けられてある事で、之れに携はる者は醫師及び特志家があるが、最も注意すべきは婦人の働らきである。そこに參ると先づ中毒患者の輕重によつて、重症の者は治療院に送り、藥用位で濟む者は投藥し、また極く輕症の者で、別段藥用の必要もなく、境遇の改善を計ればよいものさか、或はアルコールの爲めに職を失へる者には適當の職業を與へて居る。その職業の上よりアルコールに遠ざからせるのであるから無論職業は選擇する。而して一方に於ては、婦人等はアルコール中毒者の家を訪ひ、その主婦にさま〴〵の注意を與へ、家政上、生計上、充分の相談相手にな

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

つてやる。元來信仰なき者に禁酒をさせやうといふには、一番その食膳の注意を要する、一杯やらうといふのを樂しみに疲れて歸つて來た者に、酒に代ふる丈けの溫き、味よきものを注意して置くのは主婦の働らきである。これ等の事を細々と懇切に注意し、指導を與へて行く禁酒會の役員婦人等の働らきは實に偉大なるものであるど或大學の敎授が稱讃して居るが、私も治療所を見て、婦人の働らきの如何に大なるかを感じた一人である。

この治療所及相談所なるものは、その設備が極めて簡單なものである。例へば或小さい町では小學校の醫務室を借りて、一週二回午後アルコール治療所を開いて居る。私は日本に於てもさう億劫の事はないから早く治療所、相談所を開き、御婦人の働らきを願ひ度いと思ふ。

△普遍的に及べる禁酒矯風事業

獨逸は科學的の國丈けに、禁酒會、矯風事業等も

基督教主義の主張の上に立つて居るものと、全く宗教に關係なきものとあつて、普遍的に及んで居る。學者はまた學問の方面よりアルコールの有害にして危險なる事を説いて居る。また面白い事には酒を程よく用ふるといふ節酒會なるものも中々發達して居る。ドレスデンの博覽會にも節酒會の方面よりも、アルコールの害毒に關する出品物が多くあつた。日本のやうに單純に禁酒會、矯風會と云つて或一部の人が働けるにあらず、様々の方面よりアルコール中毒を唱道し、多様の團體がこの爲めに組織せられ、同目的の下に活動して居る。またこの博覽會には英國の出品も多くあつた。英國も相當に矯風事業に働いて居る。米國のこの事業に熱心なるは云ふ迄もない。翻つて露西亞に禁酒、矯風事業の進歩せるを聞かず、支那等には斯くの如き事業が起つて居るとは思はれない。どうしても禁酒、矯風事業の盛んであるか否かといふ事は、その國の文明の程度を計る尺度となると思ふが故に、日本に於ても是非共これ等の事業に國民の盡力せられんことを希望する。そして獨逸のその事業の如く、禁酒會、矯風會等は、實際的に社會の中毒者を救ふ事業を起すやうにして貰ひたい。將來もし衞生に關する博覽會等の起る場合には、日本に於てもアルコール中毒部の設置をして貰ひ度い。而して酒なるものは單に衞生上、または風俗、經濟といふ上に於て有害物であるといふに止らず、その社會、また國家を進歩せしむる爲めに、凡ての人、殊に婦人のこの事業に多々益々盡力せられん事を希望して止まない。

ニユーイングランドの建立者は其母國より聖書と酒樓とを持來れり。教會を建て、學校を立て、家庭を作り、又酒を造り、其他の神の產物と共に同じ店にて之を賣れり。教會は存續せり、學校は存續せり、家庭は存續せり、然るに酒樓は今や米國に於て公然の法外物となり、ニユーイングランド五州の中三州は酒樓を驅除したり。英國にては酒樓撲滅の運動は徐々たりと雖も、いと確固に進行しつゝあり。斯くの如くなれば、酒樓は基督教國に於て永く存續する能はざるべし。　ーウオラード孃

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

今回創設の通俗教育館

△其の成立及び參觀記△

記者

△主事棚橋源太郎氏談

大概の博物館は皆通俗教育の作用をして居るのでありますが、特に通俗教育の目的で出來て居るのはベルリンの通俗博物館であります。そこはウラニヤと稱へて居つて、幻燈を使つての講演、博物標本、理化學、天文學の機械の陳列、附屬圖書室の數部から出來て居つて、理化學機械や、望遠鏡等の自由試用を公衆に許してあることが、その特長であります。

今度文部省の通俗教育調査委員會の囑託に由つてお茶の水教育博物館の一棟に新設され、來る十二月初旬から開館のことに内定して居る通俗教育館は規模こそ小さいが、東洋のウラニヤ館とも云ふべきものでありませう。通俗教育博物館と云はないで、通俗教育館と命名したのは、陳列所の外に既に通俗圖書を讀ませる圖書館もあり、なほ追つて改築の後には通俗講演會も開催する計畫であるからであります

陳列所は百餘坪の小さい平家建ではあるが全部通俗教育の主旨にあふ樣なものばかりの陳列に充てられて居るのであります。其の内部の區劃は天產物、重要工藝品、製作順序、理化學實驗、理化學應用機械の模型、天文、衞生の數部に分たれて居る。

入口を入るとすぐそこが衞生部でありまして、山越製作所の出品に係る臘細工の健康な人の心臟、胃の腑、腎臟と、酒を飲む人の脂肪變成をしたり、萎縮したりして居る病的の心臟、胃の腑腎臟の模型が先づ來觀者の注意を惹くのであります。臘細工で拵へた衞生上完全、不完全兩樣の一日分のお料理等も具體的に食物配合の原則を説明して居ります。

其の左が天產部で、こゝには七八つの水族器が据ゑられてあつて、此の附近の淡水に棲む小動物が水

草と共に飼はれて居るのであります。水道から絶えず水が供給されて動物の盛に活動する模様は來觀の兒童を喜ばすことゝ思ひます。其の隣には剝製動物標本が本石や造花の背景と共に生態的に陳列してあります。それは秋の森と秋の水邊との二つの大きい陳列棚で、此の方面の名人の坂本喜一氏の製作に係るものであります。これ又都會の子供には趣味あり有益なる觀物の一つであると思ひます。其の次には活動館の出品の實體鏡を備へ付けて、動物生活の自然の有様を眼鏡で見せることになつて居ります。これは陳列や、水族器で見せることの出來ない方面の補ひになつて居るのであります。

次に重要工業品の製作順序の陳列には漆器、護謨セルロイド、硝子、石鹼、織物等の製作順序を、其の工場の内景を寫した繪畫や、寫眞と一所に並べてあつて、觀る者を喜ばすのであります。東京麥酒會社、古河鑛業會社、鐘淵紡績會社、花王石鹼製造所、服部時計店等からも製造順序、標本並びに工場の寫眞を出品する約束が出來て居りまして、既に出品されたのもあります。

其の隣が理化學實驗部で、こゝには各種理化學の裝置が三十種程陳列されて居りまして、説明を讀みながら、ボタンを押し、ハンドルを廻せばたやすく理化學上の理論や、應用がわかる樣になつて居るのであります、此の理化學機械の模型試用が此の博物館の眼目ともみるべきもので、此の部に出來るだけの力を用ひて居るので、開館の上は兒童や、世人の興味を第一に惹くことであらうと信じて居るのであります。

天文部には星界の現象を説明する模型や、繪畫が陳列され、可成大きい望遠鏡の備付けられて居りまして、望みの者には夕景からこれを試用させることになつて居る。

理化應用の機械としてはニッポノホン社と、三光堂とから蓄音器が寄附又は出品されて居りまして、博物館所藏の舊式のものと一所に並べて、其の發達

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

の順序を示し、望みに由つては來觀者に試用させるのであります。シンガーミシン社からもミシンが出品されて居り、婦人に限り試用させることになつて居ります。又福壽堂といふ玩具店から飛行機の模型を出品され、それと共に博物館所藏の飛行機、飛行船の繪畫を並べ掲げて、其の發達史を示してあります。

要するに此の博物館は通俗敎育のうちの理學及び其の應用の方面の智識を普及することに重きを置いて居るので通俗理化博物館と云つてもよいのであります。

○　○　○　○　○　○　○　○

斯ういふお話を伺つてから、近くに開館される敎育館を觀せていただきました。

△實物と見紛ふ臘細工

酒を飲む人の心臟が脂肪變成で腫れたやうに大きくなつてゐる、一旦は斯うなつて次はまたげつそりと縮んで健康體のよりもつと小さいものになつてしまつてゐる。コレラ、腸チブス、赤痢を病んでゐる腸の内面等が臘細工で見せてあるのが、どれ程眞に迫つてゐるかは解剖を觀たことのない私には何とも云ふことは出來ないが、あの種痘をした腕と天然痘に惱まされてゐる顔面とを見ると、實物に似たといふよりは、それよりももつと氣味の惡いものである曾てそこで開かれた博覽會であつたか、初めて臘細工の出品があつた、斯ういふ出品物にはよく人だかりがするもので、後ろから伸び上つてやつと見る位のものであつたから、そのせいか後に思ひ出す程の心持ちもなかつた。所が今日は時候の寒い、もう四時に近い薄暗がりに、がらんとした場内に立つてゐるものは陳列棚と自分ばかり、しーんと身内に泌み入る氣味惡さはじつと堪へて、痘瘡の膿の光る顔の前に足踏み締めて、硝子に顔を擦つほど中を覗き込んで、食料模型の說明を讀んだ。そうして小さい子供達はこれを見てどう思ふかしらと考へた、年齡に由つて違ひはあらうが、これは腸だ、胃の腑だとい

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ふことが解る程の子供には、彼の盛んな求智心がこれをじつと視つめさせるであらう、氣味が惡いなどといふ神經が働く余裕はないのであらう。併し子供の素質によつて、或は傍からの仕向けによつては、求智心を育てるかはりに、氣味を惡がる神經を育てることになるかも知れない、神經の敎育は大切であるが、間違つて氣味惡さが先に立つ臆病者にならぬやう、斯ういふ機會に子供の心を鍛へて置きたい、これも敎育館の惠みの一つである。

食料品模型の方では十匁の豆腐、十八匁の獸肉の幾切れがいつまでも腐らずに皿に載つて、其の成分を分析したものと共に健康を保つに足るだけの一日分の食料を示してゐる。

△坊ちやん達の好きなメダカ

卓の上四方と天井と硝子張りの水族器が幾つも並んでゐる。一番初めのを立止つてみると、中には藻が浮いてメダカが泳いでゐる。說明は斯う書いてある。

この水族器の中の動物は
メダカ
で淡水にゐる微細な動物や、植物を食べる。これより大きくなれぬ魚である。精しい事は裏の圖書室にある「通俗動物新論」で御覽なさい
又水草はキンギョモで日光にあたると酸素を出して動物に與へる。

次に豚、乳牛、山羊の小さい模型がそれ〳〵の種類に山つて、體型が違ふのを示してある。養蜂の模型は、飼養器や、巣や、密のたまつた所や精製された蜂蜜に至るまでをすつかり示してあるのが珍らしかつた。「秋の森」の陳列棚は造花の紅葉の林間に鹿と山猫がゐる「秋の水邊」の方には鶴、鴫などの水鳥と、樹の上には梟が見えた。

△種子から木材まで

植物の標本は斯うしてあつた。櫟の部は、先づ和名、洋名、科屬名、產地、採時を記して、實が二粒それから花、葉、幹の外皮、横斷面、木材になつた所まで。蠶の繭から織物まで。硝子の原料から示し

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

たのなど。

△ボタンを押すと無線電信

電氣機械の模型が澤山並んでゐる。各々其の前に取つけてあるボタンを押すポンプの水が流れる、電燈がつく、無線電信が向ふの柱の機にパッと感應する。

△「日本少年」が出來るまで

活版印刷の順序を示してある。原稿から活字、版を組んだ所、校正刷に赤インキの文字が散らばつたのや、更らに平板用及び輪轉用の紙型、鉛版、それから紙に刷つた所、かうして雜誌になるまでを示してある。

△來觀者自動計算器

一巡して入口に歸ると、十字に組んだ木造の回轉臺がある、これを入口に据えると、來觀者が一人づゝそこを通る度に回轉する、その回轉の度數が心棒の中にある計算器の數字に現はれて、十萬迄は數へる、計算器は一時止つて、新たに一から始まるのである、開館第一の觀覽者から始まつて、時と共に絶えず休まず現はれる數はどこまで進んで行くのであらう。

八月十三日　火曜日

いつもの通り岩崎邸へ行つた

今日は草取りをする者、犬小屋の掃除、山羊小屋の掃除の三組に分れた

中村先生に率られて山羊の所へ來ると、岩崎輝彌先生が見えられた。御挨拶をして、犬組と分れた。犬組の姿が見えなくなつた時、しきりに犬の吠える聲がした。「さぞ恐いだらう」と僕等は互に語り合つた。まづ第一に山羊の寢床を掃除した。榴散彈が出ること夥しい、其小さい彈丸をふんですべつて轉びさうになつた時の僕の顔はどうだつたらう。臭氣も中々激しいもの　これも修業だその内つみ肥えをつかんで畑に蒔かうといふ僕等ではないか。この位の事で弱つては大變だ。

皆が寢床の草を運んで居るうちに僕は橋本三榮の兩君と共に小屋の周圍の草を取つた。庭の樣に美しくなつたので嬉しかつた。それがすむと再び山羊の小屋へ行つて寢床を水で洗ひ、箒ではき、氣持のよい程清潔にした。

晝の食事の時互に自慢話をした。犬の方のものは犬のことを面白相に語り、山羊の方は又山羊の可愛らしさを語つた。―成蹊實務學校生徒作「夏の學校」より

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

油繪の話

美術學校敎授　久米桂一郎

△寫生派

今から二十五六年前、私が初めて佛蘭西に遊びました頃は油繪の畫風は一體に奇麗な畫即ち充分念入りに寫生して、實物らしく見える畫が流行つて居つた。當時は佛國の共和時代の初め、日本では明治の初年頃に相當し、歐大陸では學術進歩の影響を受け繪畫も亦物質的の寫生が極端迄進み、凡て實物と首引きで、正確を旨とし、花を書けば色も澤も軟かさをもその通りに出さうとし、肖像を書けばその人間と寸分違はぬものを書く樣になつた。勿論かくなる迄には長い年月の間、多くの人の努力や天才ある人の異常なる力が加つて出來上つたのは云ふ迄もない。然しこの實物通りの畫を家に掲げて長く見て居ると周圍の實物と一向趣が異らぬので、次第に飽きが出で來る。また一方少しく專門の側から云へば、この畫風は筆遣ひがいかにも細か過ぎるのと、一つは畫室の中で人工的に適當な光線を受けたものを手本として書いて居つたんで、どうも外で見た感じがないそこで外で見た自然物、生きた人間を繪き出さうと趣向を凝らした結果、終に太陽の光線、空氣の動けるものを書かなければならぬとの新らしき書き方を主張するに至つた。

△印象派

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

この新らしき書き方は、凡ての色彩を學理的に分析して、根元の色を土臺にして、各種の異つた色を集めて、自然の色を出さうとした。即ちパレットの上で色を調合するにあらず、布の上に原色の集合によつてあらはすのである。之れ即ち印象派といふので、成る程ものが生きた樣に見え、色もあざやかに外の眩しい樣な光りはよい。殊に強い日を受けた所や、蔭の空氣の固つた樣な所は中々よく出來る。そこで久しく實物寫生に飽きた畫風は、一般にその刺戟を受けて、一時非常な勢力を以て流行した。然し暫らくするとこの書き方も室内のものを寫すとか、肖像畫を書く場合には窮屈を覺え始めた。然しこの一派の爲めに如何なる變化ありしかといふに、畫を書くのに畫室の中丈けではいかぬといふ事丈けは破れた。從つて圖案も變り、形をとる事も違つて來た。

△裝飾畫

處が只光線、空氣を狙つて居つても面白くない何か變つたやり方をして一般の人を刺戟しやうといふ所から、次第に大膽になり、今迄のやうに物を見る時、初めより物を厚みのあるものだといふ事が頭にあるから間違ふ、畫は平面に書くもの故平らかに書くのが至當である。無暗に陰、日向、濃淡をつけるのは面白くないといふので、裝飾畫らしいものの流行を見るに至つた。元來裝飾畫といふものは、餘り目に感じが強過ぎるのを嫌ふので陰日向を少くして奧深くない樣に書かなければならぬ。この原則が次第に一般畫風に及んだ。尤も私が廿五六年前佛に於て學んだ先生などは、餘程古い派の人であつたが、その頃からよく先生の云はるゝには、二階から人の通るのを見ると、肩がどうの腰がどうのといふ厚みが見えるものではない、只陰のやうに色の調子を感ずる斗りであると云はれたのを記憶して居るが、今日は一般の畫風にその考へが入り込んで來た。この派の大家としては數年前物故された佛のピビスト、シヤパンなどである。かやうな大家になると、土臺

がしつかり築かれである上に、新らしい試みをするので、そこに一種の勢力もあり、趣味もあるが、今日日本等で稍ともすれば土臺なき青年畫家が、流行の上走りをして、物の形、色の調子も出ないで、ぞんざいな書き方のみを止むを得ずして居るのは、誠に見るに堪へぬ感がする。扨この主義も從來の畫風に飽きての極端な行き方で、物を平らに見やうとする仕方を、ごこ迄も極端にやれば、埃及とか支那の古い時代のまづい判の樣な形になる。日本畫でも明治の初年に文人畫の一種としてつゝいゝ芋山水等といふ變調な畫風が起り、西湖等といふ人が盛んにもてはやされたが、今日では誰れも之れを振り向きもしない。要するにさまゞゝの畫風は起つても、その影響を受けて美術の根本から壞れて終う事はない。

△全體の傾向

全體より云へば今日は歐洲の油畫が衰へなければならぬ時代になつて居る。昔歐洲の油畫の盛んになつたのは、大きな建築に相應して、全體を裝飾しなければならぬので、美術家が非常に大きな仕事を手がけた。これは伊太利のラハエル、ミケランジョルの時代以前からである。それ故美術家が今日のやうに椅子に腰かけて、繪具をこねまはすのでなく、天井から壁迄畫でかきつぶす時代であつたので自然腕が出來て居た。且つ寺院等になると外の立派な建築と內の壯嚴な畫に刺戟せられて、一層の有難味を增す樣に造られたので、從つて美術家の靈妙な技術に須つものが多かつた。然るに今日では昔程の必要がなくなつて居る。近世では裝飾畫の大家であるピビスト、シヤバン等が、僅かに建物に相應した壁畫の大作をやつて居る。私はかねてその人の手になつたものを寫眞では見て居つたが、今度巴里に行つて見ていかにもその傑作なるに驚いた。それは巴里のソルボング大學の文科の大講堂の周圍の壁畫を畫いたものである。古來宗教畫としては隨分大きな傑作もあるが、學問の尊い神聖な所をかく迄に現はし得たも

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

のは未だ嘗てない。その畫は中央に希臘の女神があり、學者の研究にたとへて、人物が組立てある。斯くの如きは今日の繪の眞に使ひ道を得たものである元來額縁に入れて室内で見る繪は、人の好み次第で漫畫でも何でも構はぬので、これを畫くのも一種の道樂仕事で、美術としての價値は餘りないが、大きなものになると、餘程考へもしなければならず、また技術も入用になつて來る。然るにさやうの機會が少くなつて行くのは、今日の油畫不振の大なる原因をなして居る。加ふるに今日のやうに生活問題に逐はれては、自然人の氣に入るものを畫いて當てなければならぬから、輕薄に流れ易い。かやうの點から云つても、ピビストシヤバン等は實に美術家として優れた者で、名利には無頓着の人であつたといふ。何れの國何れの時代でも大家は別のものであるが、この人などもどんな事が流行らうが、世間でどんなものがうけやうが、自分の信ずる所をやつて、實際力あるものを作り出した人である。佛國では十九世紀の終りに社會主義の國となつて、纏りがつかず、何となく物騷しいので繪畫もその影響を蒙り、今日ではもはやピビスト、シヤバン程の天才を出す餘裕はない。さうかと云つて他の國に大したものはない只英國は美術に就て從來餘り囑目せられなかつたが國風が一方では保守であるが、一方には非常に自由な處があり、眞からの文明國であるから、將來新方面を啓き、或は斯界の覇者を出すかとも思はれる。

（文責記者に在り）

美趣と人格

金子白夢

精神の修養と云ふものにはいろ／＼の要素がありますが、所詮は人格の完成と云ふことに歸するのであります。その人格の完成と云ふことも亦いろ／＼の方面から見ることが出來ますが、其の人格の中からしてほんのりと照り出づる「美趣の匂ひ」とでも云ふべきものが顯はれて來ないならば、未だ眞正の人格の光りと云ふものは發揮されて居らないのであります。

「美趣の匂ひ」と云ふ樣なものは到底説明することの出來ないものであります。それは説明すべく餘りに深い奧床しいものであります。言語を絶し説明を空じて而かも無限の意味を語つて居る所が、此の人格の奧に花咲いて居る美趣の匂ひとでも云ふべき一境があります。言はば此の匂ひは神の生命が人格のなかに眞理の色彩として顯現して居るのであります

由來人格と云ふものは神が自個を顯現し給ふ最高の器として創造された姿であります。ゲエテが其の詩集の献本詞の中に「詩の覆面は朝の露と太陽の光とを以て眞理（と云ふ彼女）の手によりて織り成されて居る」と歌ふて居りますが、人格と云ふ覆面も香ばしい朝の露と云ふ美趣の匂ひほのかに薫ずる情味と鮮かな太陽の光とも云ふべき信念の輝きによりて、織り成されて居るものでなくてはなりませぬ。古の聖の高い風姿のうちに何處となく「默照」の一境とも云ふべきものが光のやうにこぼれて居るのは此の人格の美趣と云ふべきものであります。

一體、眞理と云ふものは眞理其のものが抽象的の骸骨であつては、何等の勢力も感化もないのであります。唯それは宇宙の法則とか原理とか云ふ冷たい概念的のものであります。眞理が肉を附け血が通ふて來て茲に始めて眞理と云ふものが其の色彩を放つて來るのであります。人格に色彩を施されたる眞理。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

こう云つた所に眞理は生きて活躍して來るのであります。若し眞理と云ふものが單に眞理として路上の瓦礫の樣に地上に橫はつて居るものであるならば、そんな眞理は活きた人生とは沒交涉であります。眞理は人間の靈魂の中に溶け込んで、人間心靈の風姿として其の姿を表現して來るときは、眞理の光が鮮かに我と活きた關係を持つて來るのであります。眞理の光彩と云ふものは人間を待つて始めて其の生命を發揮するのであります。

人生と接觸したる眞理、人生に其の光澤の潤ひを與ふる眞理、斯くの如き眞理が人格の上に其の神彩を放つて來る眞理であります。

宗教上の眞理と云ふのは所詮は人格に集中したる神の生命の流れであります。基督が「我は眞理なり」とか「我は永遠の生命なり」とか道破せられた所に眞理の神彩が香ばしく匂ふて居ります。パウロが「イエスキリストの面にある神の榮光」。(The glory of God in the face of Jesus Christ.を觀て嘆美したのも此の深い宗教的眞理を體得し來つた境界を語つて居るのであります。

人を動かし人を感化し人を教化する神秘の力は此の人格のうちにほんのりと照り輝く神の榮光と云ふ美趣の力であります。自家人格の實證に上り來つた眞理でない限りは、何等の響きをも人間の心靈に與ふる力はないのであります。

精神の修養とは人格のうちに如何に眞理を彩るべきかと云ふ實際の問題であります。一體色彩に現はれたる神の生命は藝術上の方面から之を見ればそこに繪畫と云ふ神の言語によりて生命が啓示されて來るのであります。人生を藝術―然り活きた藝術―として見るときに人格は生命の繪畫であります。希臘風の素撲な線美のうちにもシンメトリーの美を味ふことが出來るのでありますが、それは餘りに內容の乏しい生命のない美であります。どうしても生命は色彩によりて表現されなくては、其の充實したる內容を語ることが出來ないのであります。ゲエテが

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

『ファウスト』の中に

生の潮のうちに、活動の嵐のうちに
浮きつ沈みつ搖ぎつ
彼方此方に織り成す
誕生と墳墓と
永劫の海と
行き交ふ梭と
燃えつゝある生と
斯くて我は「時」の泡立つ機もて創作し
「神」の活ける衣裳をぞ織り成す。

と歌ふて居ります。此の「神の活ける衣裳を織り成す。」と云ふ一句に人生の終極の目的も人格の完成と云ふ意味も含んで居るのであります。基督のまとふた人格と云ふ神彩陸離たる活ける衣裳は神の崇高なる生命の藝術化された匂ひであつたのでありますグエテの『フアウトス』が『世界聖書』として千古の傑作たる所以は、彼が此の傑作のうちに人生と云ふ活きた衣裳を創造したからであります。詩人が自己の最高のアスピレーションを詩のうちに表現するやうに、神は神自身のゴットハイトを人間の人格と云ふ活ける書物に書きつゝあるのであります。人格は神の最高の詩集であります。人格の美趣は流れて愛の光となる。「偉人とは其の周圍に光を放つものである」と云ふ哲人の言葉は味ふべき語であります。眞理の內容は人格のうちに滿ちて溶けて溢れて流れて斯くて光となるのであります。

人格の美趣と云ふ一種の圓かな和かな美しい光は力を用ゐずして一切を照らす光であります。基督が「我は光として世に來れり」と云へ、ヨハネが「神は光なり」と云ふ一面の宗教意識は所詮は眞理の美趣を人格的方面から眺めたる體得の一境に外ならぬのであります。

人と眞理と融合してそこに神が現はれる。宗教の最高の消息は人間のうちに神を見る外はないのであります。基督が「我を見しものは神を見しなり」と仰せられた一句に一切の宗教的眞理の奧義が盡くされて居るのであります。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

讀書の趣味

趣味の生活（其の三）

海老名みや子

△好きこそ上手

世には「下手の横好き」と申こともありますが、これは極めて例外でありまして「好きこそもの丶上手なれ」といふ方が實際に當てはまるものであります。私はお裁縫は嫌ひだけれども仕方がないから致しますといふ人に限りお裁縫の名人はありませぬ。書の嫌ひな人に書の上手もありませぬ。何の技藝によらず、一定の程度迄は進みますが、その程度を超すには、それに對する趣味を有つて居て、眞に好きでなければなりませぬ。其仕事にかゝると寢食をも忘れて熱中するものでなければなりませぬ。お裁縫の好きな人であれば、どんなに忙しくても、少しの日間を盗んで致します。實際日間を盗むので、十分二十分ととび〳〵の時間をとりあつめて、どうにかまとめて參ります。好きなればこそそれ程にして致しますのであります、讀書も其通り非常な趣味を有つてる人なればどんな忙しい場合でも少しづゝでも讀まずには居られませぬ、ある文學趣味に富める婦人が申されましたが「私は極讀むことや書くことが好きでありまして、どんな忙しい時でも、子供を負ふつて煮たきをしながら、本を讀んだり思ひついたことを書たり致します。私のは三文文學でなくておさんざん文學です」と、實に面白いではありませぬ

か。お芋を煮ながら本も讀めば歌も作る。私は此趣味が眞に欲しいのであります。

△讀書嫌ひの國民

一體日本人の讀書趣味の少いことは驚くばかりで文藝ものや雜誌の類は大分讀まれますが、少し確かりした讀物、頭を遣ふもの、肩のこるものは、どうも讀まれないさうであります。何々學士の肩書ある人々でも、一度俗社會には入りましては、我職務以外の書を讀んで樂しむといふ樣な人は實に少いさうであります。つまらぬ無駄口や、不潔な娛樂に空費する時間はあつても、高潔な書を讀んで、人格を高める時間はないといふのは、實に其人一生にとりどの位の損でありましやう。男子ですらこの通りであるとすれば、女子は申迄もありませぬ。其例を最手近に求めますれば、かく申す私が、其適例であることを自白致します。結婚後こゝに三十年、三十年と申せば實に長い歲月であります。此長い歲月の間に、これといふ纏つた書籍を讀まず、雜駁にのみ頭腦を致しましたことは、實にお恥かしい次第でありますお恥しいといふは水臭い、通り一ぺんの御挨拶ではありませぬ。眞に恥かしく殘念に思ひます。それは私にも申譯はいくらもあります。第一忙がしかつたといふことでありますが、花嫁時代をふり返つて見ても成程忙がしうございました。小さな肩に重任を脊負つて、けなげに働らきましたことは、今から考へると、我娘の樣な氣がして、能くやつたと譽めてやり度い樣であります。其時分から主人は勉強しろ勉强しろと勸めて呉れました。日に三十分でも一時間でもよいから時間を極めて本を讀めと申されました。自分でも是非さう致し度いと思ひまして、幾日か實行致しますと、何か障りが出來て、いつの間にかおやめになつて仕舞ます。それもやさしいもので立つたり座つたりの間だ〳〵に讀める位のものは多少讀まないこともありませぬが、チト六ケしいもので、字引と頸つ引きでもしなければならないものは

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

つひ億劫になつて續きませぬ。然るに若し過る三十年間、日に三十分づゝでも何か自分の好める方面を定めて勉强致しましたならばどうでしやう。それは今日の私ではありませぬ。今更千度百度悔いましても致方はありませぬが今日からでもせめて殘る生涯をして悔なき樣致し度い積りであります。如何に忙がしいとは申せ、自ら讀書趣味を養ふべき境遇にある私ですらかく實行し難いものでありますから、まして普通一般の家庭にあつてはよく〳〵の心がけがなければ出來ないことゝ思はねばなりませぬ。

△母として學問の必要を思ふ

誰しも外部のことは、垢付いたりぼろになつたり致しますのがすぐ眼につきますから絶えず〳〵注意をして手入を致しますが、内部のことは五年七年ほうつて置ても、垢が付いたか、ぼろになつたか氣が付かずに居る間に夢の如く歳月は流れて、四十五十となつて仕舞ひます。外部の飾りは其人により何の威嚴も、愛敬も添へて呉れない年ばいになつて初めて我内部の教養が如何に貧弱で、見すぼらしいかといふことを見出しました時は、眞に心細い、不愉快な感にうたれるでございましやう。五人七人の子女の母ともなりまして、中には白筋や角帽の學生も居るといふ時に、家庭の事情は愈々複雜になつて參ります。彼等の間にも樣々の出來事が起つて參ります其時に母たるものが彼等の有力なる相談相手となりて公平なる意見と明確なる判斷を與へる丈の修養がなかつたならば何となさけないことではありませぬか、男兒のみにかぎりませぬ、女兒にしても同樣であります。もう十七八にもなりますと、いつとはなく。いづこからともなく、彼らの和らかい心を音づれて居た新らしき思想なども漸やく形ちを爲して、現在の物にあきたりない感を起さしめて、樣々の方面に一種の不平や注文が初まります。其時に母たるものが眞に彼等の心に同情し其の中に動いてる思想をもよく解して彼らをよく示導し、滿足なる解釋を

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

與へ得るものでありましたらば何と仕合せではありませぬか。今日の若い人達は、私達の若い時はあゝでかうでなどの教訓などはとても耳にはは入ませぬのみならず、徒らに反抗心をますばかりであります。子からしては、分らずやの親と輕蔑せられ、親からしては其子の思想を解し得ずして何と成行くことであらうと日夜やる瀬ない思に苦しい月日を送りつゝある親達は決して尠くありませぬ。かゝる場合母として、我に今一きはの學問があつて、眞に我子に納得せしめる丈の力が欲しいと思ひますまいか。親の熱情は僅かに其子に大なる力であります。けれども道理を辨へたる母の熱情は其子の生命であります。私は今母として如何に學問が必要であるといふことを申上た丈で、他のことを申上るに及ばないと思ひます。現時の若い奥様方は少くとも高等女學校卒業の方々であります。一通りの讀書に差支へのない丈の學力ある方々であります。しかし皆さんが、自分は學問があると思召すのは間違ひであります。まだほんの緒をお得になつたばかりであります。どうぞこれからして、いつ迄も／＼、毎日／＼、少しづゝでも勉強するといふ習慣をおつけになつて、如何にそれが樂しみで、愉快であるといふ迄の趣味を養つて頂き度い。「好きこそものゝ上手なれ」好かなければ眞の勉強家、讀書家にはなれませぬ。生得好きの方は何よりのお仕合でありますが、あまり好きではないといふ方は、最初は勉めてでもお讀みになる樣にお勸め致します。さうする中に、學力も進み、骨折も少くなるにつれ追々面白みが殖へて參りまして終には好きになるものであります。尙子女をもつものは能く／＼此點に注意して、子供の時代から、此趣味を養つて置き度いものであります。

△學者に考へて載き度い問題

只困ることは、彼ら子供に讀ませる本の尠いことであります。少年少女の爲の雜誌など澤山ありますがいづれも／＼和らかい彼らのこゝろをそゝる樣な

書きぶりのものばかりで、これならばと安心して讀ませるものが實に少うございます。子供もこの種の物は進めずとも讀みたがりますが、今少確つかりしたそして興味ある讀物がほしいと思ひます。西洋人の子供達が種々の方面の本を面白さうに自由自在に讀んで居るのを見る度に、眞に羨ましいと思ひます漢字の面倒の爲に日本ではどの位讀書の趣味を害ふてるか知れませぬ。この問題は學者の方々にお願して何とかして、無駄な骨折をすくなくして本が讀める樣にして頂かねばなりませぬが、マアさし當り少しでも英語のお出來になる方は其方をおのばしになつて、大ていなものは自由に英語でお讀みになれば讀みものも潤澤で非常にお仕合だと思ひます、それには子供の時から、語學に力を入れて置かなければなりませぬ、これは私の希望でありますが十六七位になれば、やさしいものは自由に讀める丈の語學の力をつけ度いものであります。そして適當な、よい本を撰んで讀ませましたらばむしろ弊害が尠くして讀書趣味を養ふことが出來はしまいかと思ひます、兎にも角にも此大切なる讀書趣味を養ふことの一日も忽かせにしておかれないことを感じまして、切にお勸め致します。

新刊紹介

△夏の學校　成蹊實務學校生徒作　文學士中村枯林先生跋

今ペスタロッヂの名を負ひて、府下池袋に理想の學校を經營せる中村氏が、これも一つの試みとして行へる夏の學校を、生徒の日記によりて眞率に窺ひ知らるゝものにして、興味深き書物なり。府下北豐島郡池袋成蹊實務學校發行、定價二十五錢

△主婦日記　羽仁もと子編

繁雜なる主婦の務めを、徒勞なく、遺憾なく行はんとするもの、好伴侶なるべし。小石川雜司ヶ谷町一一九婦人の友社發行、定價四十錢

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

旅順まで

中安親子

「行つて參ります、御機嫌よう」
「よく氣をつけてな」
の聲を後ろに、母樣、妹弟に送られて門を出たのは七月二十一日、打水に晝の暑さを忘れ、蚊いぶしの香がそと鼻をかすめて、椽臺運び出す頃であつた。日頃は別に懐かしいとも思はなかつたわが家の門、垣根迄が何となく名殘を惜しむかのやう、妙に戀しくもあり、なつかしくもあつた。其實心細くもあつたのであるが、それも道理、父母の膝下を離れての一人旅、しかも初めてゝあつたからでもあらう。

チリン／＼神戸行／＼の聲がプラットホームに響くかと思ふと、勇ましい笛の音合圖に、車は動き初めた。見送る人も送らるゝ我も、半ば夢中であつた。

品川大森いつか過ぎて、音もけたたましい六郷の橋の上、ふと見れば十日餘の月が青疊の上を隈なく照して、稻葉をそよぐ夕風に、黄金の露と散る風情、何とも云ひやうのない心地……と見ると、美由子さんは何時の間にかノートを取出して頻りに書いて居られる。

「何を？」
「日記ですの……伯母樣よい景色ね」
「よい景色ですわね」
と鸚鵡返しのやうに答へた。美由ちやんの伯母さんに當る伊智子さんも傍から此景氣を賞讃して、共々に眺めた。美由ちやんは今年女學部の一年に入學した可愛らしい少女、色こそ黑けれ、口元のしまつた、眼元の冴え／＼した處、艶のよい黑髮を去年外國の伯父樣から戴いたタフトのリボンで無雜作にしばつた樣子が、如何にも／＼可憐である。早く滿州のお父樣やお母樣に見せて上げたい、さぞお喜びになるであらうと絶えず我が念頭を往來した。（中略）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

明くれば二十二日、空には一片の雲もない。さながら日本晴れである。夏ながら涼風袂を吹いて、何とも云へぬよい心地を、小蒸汽に送られて本船に移つたのは、朝の十時、海上鏡の如く、まして三千噸に近い船には少しも動揺を感ぜぬ程であつた。いよ〳〵陸に於てのお別れかと思へば、何となく名殘のつきぬ感じがした。いざさらば戀しき故郷！なつかしの友！

心たけく思ひ立ちにし旅なれど
　　など後るらむけふの船路に

すべて船は家族的のものである。一旦事あらば共に〳〵手を携へて生死を同じうする水上の一家庭である。船長は嚴父に比すべく、事務長は慈母の如きものである、我々一行は幸にも此やさしい慈母のお部屋の斜に當る一等室に居を占むる事になつた。元より四疊ばかりの部屋廣くはないがさりとて何一つ不自由のものもない、三人の小艇を置く場所として可なり結構であつた。

船のめづらしい我々は、一日の多くは甲板にあつて須磨、舞子、明石とうつり行く景色を眺めつゝ「はこぶは遠き陸奥の…………」と口ずさんで四方を見廻した事もあつた。晩餐後は事務長さんのお得意のヴアイオリンに甲板を賑はしめた。折から俄に降り出した驟雨に、十日餘りの月も影をかくし、アノ美くしい畫のやうな内海の景色も、忽ち薄衣に包まれて、船中は急に靜り返つてしまつた、機關のひゞき、獨り靜けき波の音に和して高くひゞくのみであつた。

二十三日雨猶止まず、日頃賑やかな甲板も、雨が降つては淋しいもの、一人として影も見えない。折々聞ゆる床しの笛の音は、船長さんのおしらべか、はたアノヴアイオリンの音は？

「美由子さん歌ひませう…………いち子さんもネ
…………離れ小島？旅泊？故郷？」

口から出まかせに合唱して見たが、悲しいかな一つとして終り迄歌へるものはなかつた。此の日手紙數

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

本認めて都のなつかしい友へ送つた。

十一時少し過ぎ門司へ寄港して、二時間ばかり碇泊との事であつた。お向ふの人、お隣の人我も〳〵と先を爭ふて上陸する後姿をうらやましく甲板に眺めて居た。

午後一時、船はやう〳〵陸を遠ざかつて、玄海に向つた。さすがに動搖烈しく食堂に出ても思ふやうに箸が動かない………のみか船長さんと我々一行の外、誰も影が見えない、不思議！勳章いかめしく胸に光らせ、碌々「お早う」の挨拶もしない面憎い軍人も、官命肩に着てボーイを叱り飛した紳士も、いつも安樂椅子をわが物顔に專有して、蠻聲張り上げた學生も影も見せない。船に醉ふたのであらうか、否々まさか左樣でもあるまい、甲板には數臺の安樂椅子のみ空しく主まち顔であつた。安眠！安眠！船に乘つては安眠が第一と兼ねて東京を出る時友人から注意を與へられたのを思ひ出して、故意とねむくもない身體をベッドの内に横へた。

二十四日朝つとめて早く起きいでゝ甲板に出た。船は何時か玄海を後にして、朝鮮海峽の島の影を進行しつゝあつたので、船の動搖は少し薄らいだ。嗚呼壯快！壯快！如何に連山亘峯の偉大なる、到底瀬戸内海の比ではない。從つて其趣も同一でない。もし彼を錦繪とたとへやうなら、之は油繪と云はねばならぬ。誰しも此景色を眺めては壯又快を叫ばずには居られないであらう。空はすみ渡つて居る。眞青な波は舷端に碎けて雪と飛び、花と散る風情、後を顧れば萬里の雲と水、アノ雲のあたりや故郷の空？されど父母のやさしい言葉、親しい友のなつかしい聲は、今なほ風を傳つて耳元に響くものゝ如く感じた。

八時食堂に列席したアノ面憎い軍人も、傲慢の紳士も、肩そびやかした學生も、靑ざめた顔をノコ〳〵出して來た。

「奥さん（船では奥さんと呼ばれて居る）實にお偉ですな、我々顔色なしです」

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

と船長の朝の挨拶に次いで、此處彼處に漏れたは賞讚の聲であつた。

「イエ……おかげさまで………」

と答へたのみ、嬉しいやうな、恥かしいやうな心持がして、他は口籠つてしまつた。實に此時ばかりは例の低い鼻も少々否大に高くなつたやうに感じた。

此の日例によつて甲板に或は景色を賞し、或は讀書に耽り、或は竊かに下手な謠を口ずさんで、只愉快〱の内に日は暮れてしまつた。晩餐後食堂の片隅に、ボーイが持つて來た鹽煎餅をかぢりながら、事務長さんや、隣室の渡邊さん(醫學博士との事である)伊智子さんと自分の四人、四方山の快談に時計の針の進むも知らなかつた。例の事務長さんはカイゼル髭をひねりながら、さも愉快さうに、前航海には此お船に桂公がお召になつた事や、船長さんは尺八の名人であるとか、此船にはボーイに藝人が多いので、毎航海に演奏會が盛にあるとの事や、何とか名は忘れたが非常に琴の上手な婦人が乘つて居られて、公の御前でヴァイオリンと合奏したことや、公が船長さんの尺八や、自分のヴァイオリンに命名された事やを物語られた。

十一時を聞いて漸いて船室に歸つた。折から雲間をもれ出る月影いとさやかに、果しない海上を照して、寄せては返す荒波の音のみ獨り音高く、船室に響いて居た。

二十五日目をさませば案じた黄海も思ひの外安々と洋々たる太洋を北へ〱と進行しつゝあつた。

午後三時上陸!上陸!此の時の嬉しさ、嗚呼今思つても微笑ずには居られない。急いで甲板に出て見ると、遙か向ふに大連の波止場が見えて居る。黒く山のやうなのは出迎への人であらう。モウこうなると矢も楯もたまらない。早く上陸し度い!早く行きたい!之ればかりが念頭をかけ廻つて、心は何となく活氣づいて、取るものも手につかない、船室に歸つたり、甲板に出たり、嗚呼、之は自分獨りではあるまい、恐らく皆左樣であつたであらう。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

船は波止場を少し離れた處で碇泊した。心配した檢疫も無事に濟んで、又徐々に進行し始めた。波止場にはハンケチの高く低く、白く赤く、動くのが見えて來た。親友を迎へる友達もあらう、官命を帶びて渡滿する上官を無理に迎へる下役もあらうし、最愛の妻子を待つ人もあらう。兎に角皆悅びを以て滿々て居るのである。我々も親愛なる弟に迎へられて上陸したのは丁度午後三時半、ア、此瞬間！此刹那こそわが一生に於ける思ひ出の一つであらう。嬉しいと云はうか、なつかしいと云はうか、恐らく云ふべき言葉を知らなかつたのである。

○　○　○　○　○　○　○　○　○

喜びの中に迎へられしわが一行は、暫く陸軍倉庫に足を休めた。夢ならで今は現に嬉しや異郷の空に踏み入りし其足並は、いかに〱愉快なりしよ。

八時半發の汽車に乘つて直ちに旅順に向つた。ステーションも大きい、且可なり立派であるが、大きい車室に薄暗いランプを點じてある、それが窓から遠慮もなく吹き入る一陣の風に一ツ消え、二ツ消え遂に悉く消えて暗黑となつたのは、さすがに非文明的である。すごい月の光に右を見ても左を見ても山又山、嗚呼これこそ滿身忠と勇とに湧く大丈夫が血の雨、血の涙に占領した故戰場であらう。カン〱（之は日本には珍らしい、支那ではステーションの出入の前後に之をならすを例とする）の度每に、いくつかの停車場を過ぎて旅順へ着いた。

「おばさま……しばらく……御きげんよう」

「マア櫂子さん……」

「お船にはおよひ遊はして？」

「イ、エ少しも……」

暫く無言！嬉しい涙が思はず頰を傳ふのであつた。

二臺の馬車は勢よくプラットホームを出た。始めてふみ分けた滿州の土地、何處が何處やら少しも見當がつかない。只すごい月に見た旅順港のみは忘れ難い壯？勇？只々淋しい感が一時に我が念頭を掩ふて

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

しまつた。

二年ぶりの積る物語、語れど〳〵つくるを知らない。もし舌に心あらば休め！の號令を下したであらう。不平を云つたであらう。「東京からのお客様」と見ず知らずの近處の人、入れ代り立ち代り、殆んど一週間は晝か夜か無茶苦茶に暮れてしまつた。

相原家の主人（常に自分は伯父様〳〵と呼んで居る）は陸軍の顯官に居らるゝ人役柄はさて置き親切で行屆いた有名の人である。

「遙々こゝに來て見物をしなくてはいかん、つとめて出來る丈地理を探るがよろしい。故戰場を弔ふがよろしい。見物豫定表を作つたが、すべて何事をするにも豫定といふものがなくてはいかぬ」と幾度となく繰り返へされた言葉である。否云はるゝのみではない、暇を見てはこゝかしこに案内の勞を取られた。或は學校に、病院に陳列館に、公園に砲臺に、又は鹽田に、軍艦に、あらゆる方面を此の親切なる伯父様によつて見物するを得たのである。

八月十日砲臺見物の其日は來た午前九時、二臺の馬車は我々一行をのせて先づ雞冠山に向つた。險しい崖、恐ろしい谷を、或は右に、或は左に迂囘して行くと、河に添ふた一つの町がある。町と云つても無論故郷の比ではない豚小屋同然の支那屈である。まぬけ顏の老爺裸の鼻垂れ小坊主が、あつちの家からもこつちの家からもノコ〳〵這ひ出て、さも物珍らし顏に我等を仰ぎ見るのであつた。長烟管ダラリとかみしめて、我のみ天下泰平、自國の亂もよその空とすまし返つた呑氣さ加減、彼れの念頭には國もない、君もない、實にあはれむべしである。世に亡國の民程あはれなものはないのである。嗚呼萬世一系の天皇を戴ける我が日の本に生れ限りなき御稜威輝く國民として生けるは、實に〳〵幸福ではないか。今更ながら感謝の念に堪へない。

凡て支那の家屋の汚穢と、土民の不潔とは、到底何ともお話にならぬ。土地なれぬ我等はいつも鼻を掩はずには居られなかつたのである。

タア、タア、ウオー、ウオー、之は滿州の地を踏んで以來、絶えず耳にした異樣の響であつた。之ぞ土民が牛馬を追ふ時のかけ聲なのである。彼等が牛馬を御するの巧妙なるは迚も日本人の及ぶ處ではない。恰も自分の手足を動かすが如く此の聲に應じて或は右に、或は左に鞭を入れる迄もなく、命のまゝに自由自在に動かす有樣は、まことに感服にたへない。

山下に馬車を置き徒歩して岩間を攀ぢ、辛うじて頂上にのぼり得た。さすがは露國の仕業とて、防禦の用意周到驚くより外はない。元より一女子の萬里の波濤を犯してこゝに來やうとは夢にも思はない。只請ふては話を聞き、書を繙いては想像するに過ぎなかつたのであるが、計らざりき、こゝに來て、今更ながら驚いた昔堅固なりし散兵濠は、そも猶グルリ〳〵と幾重にも山を取り卷き、機關砲はくづれて彼方に飛び、此方に散じて、つきぬ名殘を止めて居る。嗚呼之ぞわが勇敢なる兵士を苦しめたのであらう、憎きぞ〳〵、思はず取つてなげた小片はかなたの岩に中つて、ガンと音して山彦さ消えて行く。

ア、此の砲臺、半朽たれ、今も其面影を忍ばせて居る。昔は兵營もあれば倉庫もある、何一ッ不自由のない築城であつたさうな。破れし靴はそも誰が兵の形見か、ア、此空罐！國民が涙をしめて送つたものであらう。ア、此帽子！勇敢なる兵士の頭上に一命を擲つて幾度か主を助けたものであらう、ア、襦袢の小片！凱旋まつ慈母が孤燈の下に涙ながら縫はれたものであらう。…………見るに忍びない。只悲慘の二字を以て云ひ表すより他に言葉がないのである。

更に道を轉じて望臺に登つた。此處は敵陣中最高地で、遙かあなたに二〇三高地、倚子山、安子山をながめて居る。眼下に見ゆる一村否村ではない、敵とは云ひながら、彼も國の爲花々しい戰死を遂げた人を葬られてある露西亞の墓地である。又遠くこなたに見ゆる一村は乃木ステッセル兩將軍が會見の場

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

所、水師營である。山頂の二門の機關砲は其まゝ据え置かれてある。伏して見れば幾十丈の谷、思はず身の毛のよだつを覺ゆ。見れども〳〵眼暈りて更に見えず、進まんに足なく、語るに辭なくして、しばし佇みて天を仰ぐのみであつた。

無限の悲愁はわが胸裡に往來し、見るものとして傷心の種ならざるはなく、聞くものとして斷腸の思ひならざるはなかつた。戰死者の忠魂を弔ふ假の木標は今猶こゝかしこに建てられてある。夏草のしげみの中にすゝき、かるかや、扨は野菊に似て名もしらぬ秋草の咲き出でたるは云ひしらずやさしく、さながら手向の花とも見えた。此の墓で、此の露しげき原頭には幾多の勇士の言葉なくとも、勇ましく其戰功を語るものゝ如くであつた。

二龍山、松樹山を見終つて、白玉山に登り、納骨堂に詣でたのは丁度六時も少し過ぎ、今や暮れなんとするたそがれ時であつた。四方寂莫として聲なく遠近の蟲の音は無常を告ぐるものゝ如く、折しもあれ、今迄曇り勝なる空は俄かに薄墨を流したやう、淋しい〳〵寺の鐘が靄をわけて山から山、谷から谷へと響いて來る。祭壇にぬかづく裡にやどる白露はそも空の時雨？否そればかりではなかつたのである。

納骨堂と相對して小高き丘に表忠塔がある。ラセン狀の階段廿八段を一さくぎりとせる階を十ばかり所々ガラス一枚の明り取のあるので辛うじて頂上に登り得た。之れこそ忠勇義烈の勇士の功を後世末代に表はしたものである。其塔には乃木將軍、東鄉大將の表忠碑文があつた。高き事雲間に聳えて旅順の全市眼下にあり、遠く二〇三高地、椅子山を望んで居る。又此の表忠塔と納骨堂との中央の丘に塔がある。八景塔とて旅順八景の名を刻んだものである。

來て見れば故鄕に似たり名處の
八ツのながめの名こそ床しき

扨其八景は何々であろう

鳩灣ノ晩潮　　虎尾ノ歸帆

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

彌靈ノ朝雪　老鐵ノ晴嵐
白玉ノ夕照　陽溝ノ落雁
黄金ノ秋月　龍河ノ煙雨

と記憶して居る？

越えて十二日かねて日露の勇士が血を降らしたさ聞く二〇三高地に登つた。元より音に名高いけはしい山、其上海上二百三メートルの高地であるから、昔勇士の苦戰思ひやるべしであるが、雞冠山の方が遙により以上の感がした、そは地理不明の一女子の感想であるが、一つには目に慣たせいでもあらう？此の日伯父樣の發言で紀念の爲め晝食を頂上に味ふた。伯父樣がお心入れの握り飯、いかに〱甘かりしよ。西瓜、瓜、サイダーのいかに〱歡迎されしよ。伯父樣は面白い愉快そうな伊田さんとウヰスキーを汲み交しつゝ、快談盡んともしない。嗚呼山上の美味、故戰場の此の一日、中々に忘れ難い紀念の一つである。

故郷を出たのはツイきのふの如く思ひしに指折れば早や一と月に近くなつた。故郷よりの音信は一日〱と多くなつた「まだ歸らぬか……あまり長くはないか」と寄する親しい友もあれば、「見物もよいが歸る日の延ぬやうに」と傳へられるなつかしい〱たよりもある。「はやくお歸遊ばせよ、親子樣御出なくては淋しくて」などまめやかに云ひおこさる音信もあつた。兎に角早く歸れ〱の響は耳元に絶えずさゝやくかのやう、一方には親切の伯母樣なつかしいかい子孃が「ネ親子さん、せめてモウ一週間おのばし遊ばしてよ、次のお船に………」とのやさしいお言葉、行くもつらし、止るもつらき我が身、遂に二十一日大連發の嘉義丸にて歸京する事に決した。一と月にあまる明暮むつみし人に別るゝつらさ「渡る世間に鬼はない」とはまこと身の上、異郷の空の初旅に交を厚うした誰彼の友、わけて阪野、宮城の二氏を記して、長く御恩を忘れ度ないと思ふ。

まだ〱忘れ難い友がある。そは支那種族である。日本ならば我等如き婦の女は容易に近よる事は出來

ぬ。ましてや打とけた物語など思ひもよらない。然るにふとした事から交を得、しかも其交は一日〳〵と厚く遂に手を取つて物語るやうになつた。出立の前夜だつたと思ふ、別を惜むといふ意の書をかいて賜られ、且わが父の爲にも「筆力扛鼎」の四大字を墨跡あざやかに賜られたのである。近き將來に此名譽ある軸はわが床上に限りなき光榮を添える事であらう。

出立の其日は來たのである。前日旅順を辭し、翌日大連より乘船する事にした。

二十一日午前十時いよ〳〵出帆、陸にも船にも見送る人、見送らるゝ人、すべて涙である。かたみに振りかざすハンケチもしめり勝である。鐘を合圖にハンケは船より離れて、陸と船とが離れたと思ふ折しもあれ、けたたましい音たてゝ、除々に動き始めた。

「さようなら」「御機嫌よう」「よろしく〳〵」の聲は何處ともなく一時に湧き出した。

「伯父樣伯母樣御機嫌よう」と聲限りに叫んで力の限りハンケチを振つた。伸びて見、屈んで見ても、モウ影も見えない。聲も聞えずなつた時、悄然とし船室に入つた我は實に夢中であつた。あらゆる悲を盡して我に返つた其如くであつた。

わが一行は神戸に上陸して新橋行の汽車に乘かへた。

たらちねの御許に歸る嬉しさに
　軋るわだちもおそしとぞ思ふ

今や都は秋風立ち初めて、梢に殘る蟬の聲かすかに、門の桐の一と葉にも秋のあはれは知られた。枝折戸の眞萩、今を盛りと咲き亂れ、松が根の芙蓉やさしう、獨り主まち顏の夕べ、なつかしき父母兄弟に迎へられて玄關に立つた我は、どんな心持であつたあらう？、我ながら云ひあらはすのに苦しむのである。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

十字架の夢

松本雲舟

敎父カミンスキイは若い時には軍人で、勇猛な騎士であつた。彼は此頃ッシツアに滯在して牧會區を再興しやうとしてゐる。けれども敎會は荒廢て、信徒は乏しいので、牧ふ者なきこの牧師はクレプトッフに來て數週間を武士達の敎化に用ひた。彼は一夕集會でかやうな話をした。

「兄弟の愛を以て普通の人を愛することも善いが、倘一つ大切なのは、一般の愛―一國民が他の國民に對する愛であります。然るに何處にこの愛を見出すべきか。あゝ人よ。世界を見渡すに、何處にも憎惡あるばかりである。人々は神の命令に從はず、惡魔の命令に從つてゐるやうであります。

「困難ですな、閣下」とザグロバが言つた。「我々に士耳古人や韃靼人その他野蠻人を愛せよとお勸めになるのは。主の神もあの者共は全くお嫌ひぢやて」

「さうせよと諸君にお勸めするのぢやないが、さうすべきものだと申すのです。同じ腹から出た子供は互に愛すべき筈です。然るにどうです。クメルニッキイの時から、三十年間も、この地方に血の乾いたことがない」

「それは誰の過失ですか」

「自分の過失を最初に懺悔する者は、神が赦して下されます」

「貴父は今では僧服ぢやが、若い時には、人並に叛

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

徒をお殺しなすつたさうぢやが」

「殺しました。軍人として、それが私の義務ですから。唯殺すのは罪ぢやない。私の罪は疫病の如く彼等を憎んだ事です。これに就て私は未だ語らなかつた内證の理由があるのです。もう時も經つて、今では傷も癒たのですが。あまり私の義務をやり過したことを後悔してゐます。私はネヴオドフスキイの中隊で百人の部下を有してゐました。その小勢で單獨に出かけては、燒打したり、虐殺したり、絞殺したしました。それは何時の事だが、諸君は御存じでせう。クメルニツキイといふ韃靼人が燒打したり、殺したりしたので、我々も燒打したり、殺したりしたのです。内亂よりも慘憺たる事は無つたでせう。敵も味方も人間よりも狂犬のやうに戰つたでした。

「或時凶徒がルシツキイの城寨を圍んだといふ情報に接して、私は援兵にやられました。もう後の祭で城寨は地に壞れてゐました。私は直ぐ醉拂つてゐる百姓を襲つて、矢たらに切倒した。小麥の中に隱れて遁げた者は僅かでした。私はそれをも虜にして、見せしめのために絞殺させたのでした。何處で絞殺いたしませう？言ふ方が行ふよりも易しい。村には立木が一本もないです。畑境の梨の樹まで切倒されてゐるので。さうかと言つて絞首臺を造る閑もない曠原の中なので、森一つないんです。どうしたら可いか。捕虜を曳張つて進軍しました。晩かれ早かれ枝の分れた若い樫の樹でもあるだらうと思つて、一哩行き二哩行きました。曠原から曠原、球も轉せるやうな平地です。夕暮になつて、漸く村の跡へ出ました。彼此見廻すと、燃屑と灰が積層なつてゐる。唯それだけです。小さな岡の側に大きな樫の樹の十字架が立つてゐました。まだ新らしいやうで、木が黑づんでゐたので、夕暮に火のやうに輝きました。その上に基督が掘てありました。錫に刻んで、活きてゐるやうに描いてあるので、横から見ないと、錫の板ではなくつて眞正の像のやうに想はれたです。顏は一層活々として、苦痛に蒼白く頭には棘の冠を

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

殺つて、眼は天を仰いて惨憺たる悲哀と愁が不思議に現はれてゐました。私はその十字架を見て『これだ。このほかに樹は見つからない』と心に想ひましたが、直ぐ呀とした。父と子の御名に於て、十字架で絞殺は出來ない。でも、基督の前で多くの罪なき者の血を流した者共を殺したならば、基督の眼を歓ばすことが出來ると思つて『あゝ懐しき主よ、此者共は爾を十字架に釘けた猶太人であります』と言つて、捕虜を一人一人十字架の下の堤に曳づつて來らせて、斬殺しました。その中には白髪の百姓も若い者もゐました。一番先に連れて來た者が『主基督のために、どうぞお救け下さい』と言ひましたが、私は『首を落せ』と答へると、一人の龍騎兵が斬倒した……又一人を連て來ると『基督のために、どうぞお救け下さい』と同じやうに言ふのです。私は『又首を落せ』と答へました。三人目も四人目も五人も同じやうにさう言ひます。皆で十四人でしたが、一人殘らす『基督に依つて』と言ひました。……全然斬殺した時に、夕暮の光は消えました。私は十字架の下に丸く其者共を置せた。……この有様を見て基督がお歓びになると思つた自分は馬鹿でした。彼等は暫くぴく／＼してゐた。手を動したり、足を動したり、水から上つた魚のやうに身をばた／＼する者もある。それも長くは續かず全く力が失なつて、默つて珠數のやうに十字架を圍んでゐるのです。

「眞暗になつたので、そこに夜營するやうに定めました。火を燃す材料はないが、幸に溫かな晩で兵士等は馬の毛布の上に寢ました。私は基督の足下に往つて、例の通り祈禱を繰返しました。この日の働きのために、私の祈は歓んで聽き屆けられると思つたのです。

「疲れてゐる兵士に夕の祈をして直ぐ睡つた。私もさうでした。龍騎兵は私が十字架に頭を載せて跪いてゐるのを見て、深い默禱をしてゐるのだと思つて私を起さなかつた。私は直く眼を閉つたが、十字架のお蔭で珍らしい夢を見ました。私は異な象を見るほ

どの値はないから、さう申しませんが、兎に角睡眠に落つると、目が醒めてゐる時のやうに判然と主の十字架の苦難を見ました。……罪のない羔の苦しむのを見て、胸破れ涙流れ、痛しさに心は一杯になつた。私は言ひました『あゝ、主よ私は一隊の善人を率ゐてゐます。私が騎兵の腕前を御覧下さい。唯首肯いて下されば、忽ち軍刀を以て、爾を十字架に釘けた者共を片付けてしまいます』。私が恁う言うと、何も彼も消えて、唯十字架と血の涙を流す十字架像とが殘りました。……泣きながら、私は聖なる十字架像の足を抱いた。どんなに長く泣いたか、私は知りません。併し泣き止んでから、私は又叫んだ『あゝ主よ、あゝ主よ、爾はどうして頑迷な猶太人に聖き教をなさいましたか。パレスタインからわが民政國にお出てになつたら、確に私共は爾を十字架に釘けるやうなことをせず、爾を寬待して、尊き賜物を捧げて、崇めまつりましたらうに、何故さうなさいませんでしたか、主よ』

「私が眼を上げて見ると、夢の中にどうです、諸君何が見えましたか、主は嚴然と私を見下して、頷を蹙めて、突然大きな聲で『汝の崇敬は安直なものだどんな賤しい者でも戰爭中にはそれを買へるだらうまあそんなものだ。汝等も暴徒も價値は同じことだ汝等は猶太人よりも惡い。毎日私を十字架に釘けてゐる……私は敵を愛せよ、罪を赦せよと命じたではないか。然るに汝等は野獸のやうにお互に屠り合ふ私はそれを目擊して苦痛に堪へないのである。十字架から私を解いて民政國に連れて來るといふ汝は何を仕たか。見よ、汝は私の十字架の下に血を注いで死骸をその周圍に置いた。その中には罪のない若者や眼の見えない盲人もありて、力なき羊の如く一緒に殺された。汝は彼等を憫んだか、殺す前にその罪を審いたか。汝は私のために彼等を殺せと命じて、それで私が慰められると思つてゐる。實際父が子を罰し、兄が弟を罰する如く他人を悲難し又罰するのと、何等の訊問もせずに復讐し殘虐するのとは全く

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

別な事である。この國では狼の方が人間よりも慈悲深いやうである。草は血の露を宿し、風は吹くのでなくつて、哭してゐる。河には涙が流れ、人々は死に對して兩手を擴げて、『あゝ我が隠家よ』と叫んでゐる。』

『あゝ主よ』と私は叫んだ。『彼等は私共よりも善いのですが。最も大なる、殘酷を行つたのは誰ですか異教徒を茲へ連れて來たのは誰ですか』

『懲しめの間にも彼等を愛せよ』と主が言はれた。『さうすれば梁が彼等の眼から落ち、強情は彼等の心を去つて、私の仁惠は汝等の上にあらん。然らざれば韃靼人は襲ひ來つて、汝等と彼等を壓制して汝等が互に愛する時までは苦痛と涙と輕蔑を以て敵に使へるやうにされるだらう。汝等が憎惡を極度に増せば誰も仁惠を得ず、異教徒は世々此國を占領するのである。』

『斯る命令を聽いて、私は恐縮した。長い間口を利くことが出來なかつたが、面を伏せてお尋ねした。

『あゝ主よ、私の罪を洗ふにはどうすれば善いのですか』主はこれに答へられた。『行いて、わが言葉を繰り返し、愛を宣傳せよ』。私の夢はそれで終つた。

『夏の夜は短いので、曉方の露に濡れて目が醒めた私は見廻した。死人の首は、十字架の周圍に花冠のやうに横はつてゐる。既に紫色をしてゐる。不思議な事もあるものです。昨日此の有様が面白かつたのが、今日は畏ろしくなつた。殊に年十七ばかりの非常に美しい若者を見て畏しかつた。私は十字架の下に鄭重に凡ての死骸を埋葬するやうに兵士に命じた。その日から私は別人になりました。それから私は愛を宣傳し初めた。けれども同僚は私の目の前で笑つた『何だ、この男が我々を教訓する坊さんか』などゝ言ひました、誰も私の言ふ事を聽きませんでした。ペレスラクロの後、私は僧服を着て、神の言葉を宣傳するために重味をつけました。二十年以上もそれから休まず働いてゐます。神は恩深い力なので私を罰したまひますまい。私の聲は野に叫ぶ人の

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

聲であります。

「諸君、敵を愛せよ、父の如く彼等を罰せよ。兄弟として彼等を責めよ、然らざれば彼等にも禍諸君にも禍、民政國全體に禍である。

「四邊を見たまへ。此戰の結果は何であるか、兄弟と兄弟との憎惡は何であるか。この國は砂漠となつた。ウシタには敎區民の代りに墓がある。敎會も町も村も荒廢てた。異敎徒の權力は海の如く膨張して諸君を呑んとしてゐる。あゝカメネッツの岩よ」

（シエキエ井ツチ作）

新刊紹介

▲美しきジョー　日高善一譯

ジョーとは苛酷なる主人のために耳も尾も切り去られて捨られたる醜き犬の名也。此犬は一紳士に拾はれ更に牧師の家に養はれ、怜悧にして温和なる性質より、ビユーチフル、ジョーと名けられたり。此書は彼れジョーが自叙傳にして波瀾曲折よく讀者を引つくるも、徒らに興味中心の作物にあらず、六分の眞面目に四分の諧謔を加味し、其間美しき感情と高き道義心とを喚起せざれば已まざるものあり。自分は此書を手にして身の多忙なるを忘れ一氣之を讀了せり。思ふに少年少女にして此書を讀まば盡きざる興味を感じ同時に優美なる感情と動物愛護の精神とを涵養するなるべし。近來出色の出版物として家庭にすゝむ。東京内外出版協會發行定價金七拾錢

◎ブース大將夫人がその子に贈りたる書翰の一節

オ、彼の名前許りの基督信者は禍なるかな。卿は其同胞を救ふ爲に、何事をか爲さゞる可らざるを感じ、熱血の煮返ることを覺ねざるか。母は主が卿を到る所、萬事に於て不愉快ならしめ、餘儀なくも福音を宣傳へざるを得ざる樣、仕向け給はんことを望む。オ、母は其日に見、耳に聞く所の此世の出來事に對し、憤慨と悲嘆に堪へざるものに候。我等は充分警戒して、決して宮の束縛を受る者となる可らず。是は殆ど萬人の悉く皆破船する所の暗礁に候。主が我等をして彼等の高慢倨傲を蔑視する高貴なる精神を有せしめ給はんことを。オ、我子よ、主は恰も卿如き青年が、衆人を離れ、耶蘇基督のことのみ求めて其他を思はざる者とならんことを要め給ふ。卿は然かするの自由あり、又神の惠に由て然かすることを得るなり。卿は其爲に生れたる者にて、卿の前には大なる機會が横り居ることに候。奮起して其使命に應ずることを能はざるか。「心を強くし、且つ勇め」「我（我在りといふもの）汝と偕に在るべし」「彼等の中より出でよ、我備實を納ん」て卿は世界と其萬物とを支ふる者の手に倚り縋ること能はざるか。卿若しよく之を爲さば決して失敗の恐なし。主は必らず其權力を以て卿を護り、其顏を銅となし、其舌を焰となし給はん。卿は傳道せざる可らず候。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

隨感

◎趣味ある贈物

みや子

京都なる友の許から一日、尺四方位の箱の小包が屆きました。折しも夕食の最中で、子供等も皆打揃つてをりましたので、はやく／＼とせきたてられて固く釘づけられた箱を、のみや、金鎚であけました中から何が出るであらう、お茶器道具か、お菓子器か、噂とり／＼見てをりますと、幾つともなく、小さく新聞紙に包まれたものが出て參ります。觸つて見ると、固いもの、大きいもの、小さいもの長細いもの、丸いもの、角のあるもの、ひらたいもの、マア珍らしいもの、何であらうと、片唾を呑んで見てをりますと、眞つ先に顯はれたものは子安貝、妹貝壽童枕、蜀紅螺と十幾種の貝のいろ／＼、何處の濱の荒波に洗はれてか、光澤美くしく、繪、白飛、形付、ぼかし、様々の色取の見事さ、皆々其美に見とれました。そして此貝を入れて飾る爲に、風情ある竹籠をさへ添へてありました。

まだ何かありさうだと手をつきこんで見ますと、驚きました、チクリ／＼とさすものがあります。皆一聲にヤア何だらうと異様に眼を光らして見てをりますと、チクリ／＼さすのも尤、針の様なとげあるシャボテンが新聞の中からコロリと出て參りました又それが二つも三つも四つも五つも丁度手品師が箱の中から卵をとり出す様に限りなく出て參ります。しかも同種であつて皆形の違つたもの、丸いとげのあるのや長い猫の尻つ尾の様なもの、平つたい葉の形をなしたものや幾つも／＼玉をあつめて岩石の形をなしたもの〻千態萬狀同じものを以て自由自在によくかう面白く出來たものだと、滑稽ある造化の妙に誰も彼れも笑はされました。其數廿餘種。此海陸の珍ら敷贈物、流石に詩人にして科學者なる友の贈

物と、其ゆかしい心入を真に嬉敷受けました。貝の名、其産地、各種のシヤボテンの名、其培養法など細々と認めた手紙の中に貝を歌つたテニソンの詩の一節と「己れの欲する處を人に施せ」の金言に從ひし積りに候」句を見て實にもと一層難有感じました。貝は籠に入れて床の間に飾りシヤボテンは素焼の鉢に植へてガラス戸の本箱を温室として、日當りのよい椽側に並べ、毎日〱見て樂しんで居ます。幸についてよく繁殖致しましたらば友の心を其まゝに、他の友人にも廣く分ち度いと思つて居ます。

◎「絶えざる」といふ事

宇佐美敬子

何事をするのにも絶えざる努力の必要であることはいふまでもありませんが、其「絶えざる」といふことは餘程困難なものであります。殊に其事が習慣的になされ得ること卽ち「慣れゝば何でもない」と普通考へられて居ることゝに向つて一層むづかしい事と思ひます。勿論慣れるといふ事は凡ての仕事に最も大切であります不慣といふ事の爲めに其心力體力をどの位不經濟な使ひ方をするかわかりません。ところが此慣れるといふ言葉の中には非常に危險な分子がありまして稍ゝもするとたゞ努力の精神を鈍らすばかりでなく怠慢をはらみ、ひいて其仕事の生氣を失ふに至るものであります。人は比較的新しい仕事についた時は此努力の精神がいき〱してゐて、少くも自分自身にはよほど心の緊張を感ずるものであります。それですから大抵な人が或仕事にとりかゝつたときは活氣に充ちた元氣のある人であります、それが追々其事に慣れて幾分容易くなつたと感じた時、努力の精神に蠹が食ひこむ恐れがあります。そこをきりぬけてその慣れた爲めに儉約の出來る精神身體の力を無益に流してしまはない樣に、初めの張りのあつた自己を反省してゆく事が極めて必要であると考へます。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

◎母の心

金矢藤子

「雪の日やあれも人の子樽拾ひ」誰でも此の句は知つてゐる。いゝ句だらうな、いゝ句だ、どうもいゝ只涙！人樣々に思ふであらうが、若し文字を解しうる人の母にして、涙といふに至らぬものは、女として假令如何なる美點があらうともだめと、つく〴〵母となつての此の冬に感じた。今迄の自分は確に此の句の味を知つてゐると信じた。しかし〳〵夫れは間違であつた。其の子といふ者に對しての感じは、到底、娘時代に知り得るものではない。どんな醜い又、愚な者でも、あれも人の子と思へば、湧然として愛憐の情は湧く。我が子若し彼ならばと思ふと、憎いだの、嫌ひだの、うとましいのと云ふ感は少しも起らぬ。何とかして其の子の幸福の生涯が送らるゝやうにと行末の爲めに計つてやらずには居れぬ。子を待たぬ以前に果してこれ丈の同情が有つたらうか。女は母となつて初めて其美德を完うすといふが只自分の子に對してのみならば、寧、本能とても云はれやうが、之を他に移すによつて、遂に人たる價値を增すのである。此の意よりして大體について云へば、敎師は母たるの經驗あるにあらざれば、十分だとは云はれぬ。

◎故國雜感

みさを（米國）

私は此の秋二週間計の時を作つて久々で自分の故郷を訪れました、夢寐にも忘れられない懷かしい古郷殊に我が母我が兄弟姉妹に歡迎られて打ち寛いだ十數日を送るのは誠に樂しいそして尊い日でした。あの故郷特有の生活狀態が再び自分の頭の古い印象を辿る時、云ひ知れぬ懷かしさを想ふのでした。

自分が故郷を懷かしいと思ふ時、其れは故郷の景色でもなく、のんびりした田舍であるが爲めでもなくして、我靈を育てられたる地、我が生命を作られ

し地と思ふからであります。此の母の國に尊い日を送つた間に私は又云ひしれぬ一つの悲しみを感じたのであります。

私のこの兩度計りの歸省の度に私の故國は遺憾ながら自分が故郷に對する美しい感情を私の幼い頃の夢として葬らねばならぬ悲しみを持つたのであります。此の片山里の新開邑には一日を追ふて新らしがりの人々の町となりつゝあるのが私の目に寫るのです。狹い土地に別莊を建てゝ墮弱な生活振りを眞似たり、良家の令孃は雜誌の口繪を見て都の虛榮にあこがれて居る、其れ故村民の心を指導する小學校の敎師や、寺院の傳導者は口を揃へて子女遊學の弊風を說くかと思ふと、一方には其の人々初め日一日と利に敏く、純朴を棄て、宗敎を棄て、何物か新らしい珍らしいものを夢みて居るやうに、一々の事にものゝ良否を辨へる先きに新らしきを執り、目前の利に走るのであります。

二週間の日數は私の爲には可成り長い間でした、其の間の田舍の秋は、稻の收穫を終へ、柿の木の赤い實が大方取り落された位の出來事より外に、何事も起りませんでした。家に居る人々の仕事は赤十字の醵金を出したり、愛國婦人會の入會を進められたりする外別に差迫つた事を考へる必要もなく過されるらしい、斯樣にして所謂新らしい人々が何を云ふて居やうが、又吾等の住む世界の一角にどんな戰爭が起つて居やうが、其れ等の事には何の興味もなく何の注意もなく只ゴム輪の車が出來たと云ふては都の風俗に後れまいとあせり、電話の話を聞いてはテク／＼と働かなければならぬ百姓が鍬を棄てゝ驚き羨むのであります。

この邑は昔からの佛敎流布の有名な地方なのですが或日クリスト敎の傳導師が此の邑へ來ました、邑の若い人々は老人を寺詣りに送り出して置いて、牧師の讃美歌を面白がりに聞きに集りました、其の中には硬い佛敎信者の令孃も交つて居りました、私は其れを聞いた時此の人々のなにも求むる心の抑へ難

いものがあるのであらうと密に嬉しい感じが致しましたが、扨顧つて見ると唯新らしい何物かを喜ぶ若い人々の爲めに、古い硬い信仰の廢れつゝある此の邑の山川を眺めて、一種の悲しさをつく〴〵と思ふのでした。

◎乳と母親

柳八重子

母といふ經驗を踏む第一歩に、計らずも乳を病んで、人工哺乳をしなければならぬといふ試みに逢つて、いろ〳〵のことを考へました。

今の世の智識の限りと、あらゆる方法とを集めてもなほ人工哺乳は、母親の與へる乳に遠く及ばないさうでございます。それ程貴い乳汁を與へて居る間の母親は、無意識に非常なる心身の勞作をして居るものと思はれます。よく子持の何とやら申して、子持の食慾が進むことゝ、眠がることとを世間の諺に申されて居ります。劇しい心身の消耗は、それによつて補はれて參るのでございませう。

然るに近頃私共が近く見ます實例によりますと、頭腦を使ふことの多い母親――何か家庭以外に仕事をもつて居る類の人達は乳の量が少ない、或は全く出ないといふことを屢々證據立てられるやうに思はれます。それから又何も仕事といふ程のことをしないでも、時々頭腦を使ふ仕事を續けると、眼に見えて乳の出が少なくなると云はれる人もございます。昔から「氣を使ふと乳が出なくなる」と申しますし、近頃でも育兒書のどれにも母親の精神感動が直に乳に影響することを記されてあります。狹い範圍の經驗ではございますが、只今の處では頭腦を使ふことの多いに從つて、乳の出が少なくなるといふことを信じてもあまり違ひはないやうに思はれます。

頭腦を使ふこと、それは正當に使ふ場合もあれば徒勞に費す場合もございませうが、とにかく今の時代の母親は昔より頭腦を使ふ必要が多いことは申すまでもございません、そしてそれが人間の向上に伴

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ふ自然の勢なのでございます。
そこに疑ひが起るのでございます。人の子の生命の芽を育てる養料は、母親の乳の外に何物も及ばないとするならば、同じく人間の生命をつくるために頭腦の働らきを多くするといふことが、乳を少なくするのでせうか。母親が少しばかり頭腦を使つたために消耗と、補給の平均を失つて、乳の量が少なくなるといふならば、あまりに乏しい婦人の勢力を悲しまずには居られません。たしかに身體に比べて精神の鍛錬が劣つて居る證ではございますまいか。それにつけても、思ひ煩ふこと少なく、只一つの道を忘れずに、日夜に歩む人の幸を思ふのでございます

◎女子と個性發達

記者

個性の發達した女子と云へば、直ちに恐るべき女のやうに考へらるゝのは、誇張して繪かれた近代劇の色づけた考へ方でありませう。然し個性なきものゝ教育は却つて困難な事で、此意味で女子教育家は男子教育家よりも一層骨の折れる事と深き同情の注がれる事であります。成る程個性なきものは或期間一つ型に嵌めて置くには都合がよいでありませうが生れ代らせるといふ程根本から教育の効果を及ぼす事は不可能であります。それ故女子を教育するには絶えず薪を入れて行かなければ、向上、發展の熱は直ちに消えて終う。もし消えざる向上、發展のもとを作らうとするには、いかなる境遇に處しても、執るべき道を撰擇して誤らざる程の個性を作らなければなりませぬ。

然し今日の女子教育に於てはそれは到底覺束ない次第であります。教師專制は男子の學校よりも猶劇しく劃一されたる教育の範圍は男子のそれよりも狹隘であります。此間に養はれてどうして各自の才能を自由に發揮するなどゝいふ餘裕がありませうか。女子教育家は一層の創始力と忍耐力とを以て、社會と戰ひつゝ其の教育を發明していたゞき度いものであります。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

時事其折々

記者

劃一教育問題

エリオット博士の我教育に關する意見が一度發表せられてから、文部省從來の教育主義に對して非難續出し、去月中旬頃迄は此議論で中々賑かであつた、エ博士の教育意見は今更繰り返して紹介する必要を認めないが、現今我國の教育が餘りに鑄型的で、統一的で、學校管理の上からも又は學生教授の上からも、餘りに干渉的で、文部省の一方針なるものに、徹頭徹尾適應しなければ其存在を許されぬと云ふが如き、劃一主義的教育が、決して國家有要の人物を養成する所以でない事は明かな處であるから、教育制度の改良は何にもエ博士の意見を待たないのであるが、キ博士の忠言が過ま樞密院の有志を動かし延いて吾國教育の將來を憂慮する識者の眞面目なる論義を見るに至つたのである、輿論は大體に於てエ博士の意見に贊成を表すると同時に、盛に劃一主義の打破を絶叫したのである。エ博士の意見中十五歳以上の青年に課目撰擇の自由を得しむべしといふ條項や、二外國語主義を改めて一外國語にすべしと云ふやうな、實際問題に就いては、世上種々なる異論が起つたけれども、要するに博士の眞意は教育は單に學理を研究するものでなくして、(大學も)國家有要の人物を作るにあるを以て、學生にして目的が決定したならば成る可く各自の志望を遂げしむる方針を主張したのである、外國語問題に就ても日本人は外國語習得に關して特別なる困難なる境遇に居るのであるから、同時に二個國語を勉強して、却つて虻蜂取らずに終りはしないかを恐れたのである、博士は「予が少き見聞調査に依るも、日本語若くは漢文なるものは頗る六ケ敷き學問にして、之を十分實用に供せしむるさへ餘程の困難なるが如し、此點より云ふも日本學生に二外國語を授くるは重課なり」と云つてゐる處から見ると、博士は只管ら眞實役に立つやう、實效が擧がるやうと忠告してゐるのである。次で女子高等教育に關して博士は寧ろ反對の意見を述

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

べて居るかの如く見ゆるけれども、實は全く左様で無い、博士は常にエマーソンの「女子は終世男子の性靈的好侶伴なり」との言を推奨して居る人であるから、如何して女子の高等教育を拒認する筈があらふ。想ふに博士は其意見書に女子高等教育の弊を擧げたのは、高等教育にあらずして、女子に男子と同様、若しくは夫れ以上の科目を授けて居る弊害を説いたのである。博士が例に引いた米國の女學生が男子と同様な教育を施さるゝ結果、漸次女子の本性を失して、結婚を厭ひ或は育兒家政を顧みないといふ弊風を我日本でも繰返さぬ事を注意したのである。

要するに博士の意見は格別新らしい處はないが、一々時弊に當つたものをして我が社會から多少の注意を以て迎へられた事は事實である。

米大統領の當選

ルーズヱルトかタフトかウヰルソンかと長い間世界の人心を緊張さした米國大統領の選擧は、愈々去月五日に行はれた。何さま四年目に一度行はれる選擧の事であるし、ル氏とタ氏との同志打や連戰連敗の黨勢を此機に乘じて盛り返へさうとする民主黨やの其日の活動は如何なであつたか、眞に肉躍り骨鳴の活劇を演じた事であらう、選擧の結果は、前々から豫想に違はず、遂に民主黨のウヰルソン氏に月桂冠は落ちぬ。

ウ氏はプリンストン大學の教授及び總長を二十年も勤めてゐた人で、米國一流の政治學者として、名聲隆々たる人である、氏は五十三歳の時始めて學界より移つて政界に入り、ニユーゼルシー州の知事となつた、本年は五十四歳であるが、明年三月から大統領に就任する筈である。

氏の最も得意とする處は米國憲法で、就中米國建國の精神を了解して居る事に依つては、現今の米國政治家中誰れも氏に及ばないと云ふ事である。極端な平民主義な人で、先年プリンストン大學の紛擾も全く之が爲めであつた、と云ふのは一體プリンストン大學は富豪の子弟が多く、自然大學の社交倶樂部に黨族的階級を生じ、一種の弊風を醸成したので、ウ氏は激しく平等主義を皷吹して風規の一新に力めたと云ふ事である。政界に於ける氏の言論も尚ほ斯の色彩を帶び、十九世紀産業發達の餘弊として生じた特權的の階級を打破して、政權をボスの手から人

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

民に復歸させやうと力めて居る。氏はタ氏の如く憲法擁護論者であるけれども夫れ程保守的でなく、ル氏のやうに進歩主義であるけれども破壊的でない。温健中正な思想を持してる人である。民主黨か國民に公約した政綱を擧げて見ると、關税引下、生活費の低下、非トラスト法等であるから、種々なる方面に於て、ウ氏の當選は我國にとりて多大の利益であらう。

メービー博士の來朝

曩きに吾が新渡戸博士が日米交換教授の爲め渡米されたるに對して、今回米國アウトルック雜誌文藝主任ハミルトン、メービー博士が來朝さるゝ事となつた。此の交換教授の事業は米國カーネギー平和財團が國際的平和及び了解を目的として互に教授を交換して、自國の眞相を他國民に紹介し、多く起り勝ちな國際的誤解などを解く爲めである、聞く處によれば吾が新渡戸博士が米國各地に於てされた講演及び談話によつて、米國人の日本に對する誤解僻見は大分除かれたといふ事である。

メービー博士はコロンビヤ大學の出身で、他に五六の大學の名譽學位を有し、シエークスピーヤの研究者として有名な人である。學者としてよりは寧ろ温厚典雅な紳士として知られて居る、其文章に至つては流麗暢達一世に名高い、アウトルック誌が米國及び海外に多數の讀者を有するは、メービー博士の文章も亦與つて力あるとの事である、博士は夫人及び令孃同伴の上去月十五日桑港出帆の東洋汽船地洋丸に搭乘し、十二月一日正午頃横濱入港の豫定である。東京には略二ケ月滯在夫れより三ケ月間各地を巡回して講演さるゝ筈である。博士は前回のエリオツト博士の如く專ら學者としての立場からでなく、米國の高潔なる一紳士として米國人の根本思想なり平民心理とでも云ふ可きものを闡明せんとさるゝ由である。吾人は正月號の本誌に於て博士講演の一部を讀者に紹介したいものであると希望して居る。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

社友となる辭

小橋三四子

入社の御挨拶をこの誌上に掲げましてから、未だ一年にも滿たざる今日、早くもこゝに再び辭任の辭を述べますのは、いかにも不本意の至りで御座います。且つこの度の事は全く自分の都合上、しかも俄かの思ひ立ちとて、幾度か我儘であらうかと躊躇ひましたものの、深き祈りの末、あゝも、こうもとの希望を多く抱きながらも、微力なる私なるに加へて、御承知の通り女子青年會の方にも兼務致して居りました事とて、何の爲す所もなく今日に及び、今更ら多くの負債を擔ふて缺るゝに似て、心苦しき限りで御座います。然し幸、社友として今後も深き關係を保つやうにとの本誌の好意に任せ、たとへ編輯は辭しても、なほ一方に於ては本誌の忠實なる讀者たると共に、一方に於ては出來る丈けの發展を計り度い考へで御座います。それ故敢へてこゝにも社友となる辭を掲げた次第で御座います。今回私は青年會の方も同時に辭任いたした事は、餘事ながら、少しは申譯の足しにもならうかと申添へて戴き度う御座います。

次號は新年號にクリスマス號を兼ね、例年の通り二十五日に發行致されます。編輯には多分大塚尚氏が當られる事と存じます。

定價

（郵税加算）	内地及朝鮮支那	外國
一部	金拾貳錢	金拾六錢
六部（半年分）	前金七拾貳錢	前金九十貳錢
十二部（一年分）	前金壹圓四十錢	前金壹圓七拾五錢

廣告料

一行（廿三字詰）	金廿五錢	
一頁	金拾圓	
四半頁	金三圓	
内表紙	金拾貳圓	
半頁	金五圓	
外表紙	金拾八圓	

猶ほ引續き御廣告の向へは特別大割引可仕候

摘要

▲本誌代金は總て前金にて御拂込み被下度候
▲郵券代用は一割増の計算にて御送附被下度候
▲御送金は振替にて拂込るゝ方便利に候但手數料金壹錢御加へ被下度候
▲通信、爲換、寄贈雜誌等は必ず發行所宛に願上候

大正元年十一月三十日印刷
大正元年十二月一日發行

發行兼編輯人　東京市小石川區林町四十三番地　海老名彈正
印刷人　東京市小石川區丸山町四番地　相以一郎介
印刷所　東京市赤坂區田町五丁目十一番地　齋藤活版所
發行所　東京市小石川區林町四十三番地　新人社
電話番町二五四四　振替貯金口座一四〇〇五

新人

十二月號（第十三卷第十二號）要目

土耳其民族の盛衰……社説
憂國の至情……海老名彈正
思想界の先覺……栗原基
宗教の主觀的方面……今泉眞幸
フレンセンの基督觀……大塚楠男
基督教信仰論……山口金作
我等の生は千載一遇也……佐藤清
滯英雜感……長谷川天溪
年始狀の趣味……志賀重昂
マグダラのマリヤ……森脇白夜

東京　新人社發行

新時代の要求する新雜誌

國民倶樂部

▲見よ内容の充實したる十二月號を▲

官吏亡國論　松村介石

◉言葉は心の産んだ子供　貴族院議員　江原素六

◉米國大統領選擧と米國の美點　早稻田大學教授　安部磯雄

◉模範村は誰の力で出來る　家庭學校校長　留岡幸助

◉頑固思想に對する進歩思想の勝利　慶應義塾大學教授　向軍治

◉大國民の理想とは何か　早稻田大學教授　内ヶ崎作三郎

煩悶せる日本……島田三郎

◉元氣ある青年は南洋に行け　力行會長　島貫兵太夫

◉無盡藏なる南洋の富源　南洋領事　染谷成章

◉戀愛と結婚と男女交際　日本女子商業學校監學　嘉悦孝子

◉犯罪の裏面と婦人の魔力　市ヶ谷監獄教誨師　勝水淳行

◉悲慘なる境遇に泣く婦人の告白……白菊女史

◉萬國の異郷で奮鬪する英國貴婦人

逆境の人に與ふ……山室軍平

一冊金十錢　六冊金六十五錢　十二冊金一圓廿錢

東京神田表猿樂町　振替二三一六四番

國民出版社

院長診察、月、水、木、金午前、入院、診察應需

林、峰間、兩副長ハ目下當院ニ在勤、

（電本）八八八（病院用）
八九八（私宅用）

東洋內科醫院

東京神田區駿河臺鈴木町二御茶水橋附近

院長 醫學士 高田畊安

神奈川縣高座郡茅ケ崎海濱從停車場半里

電、チガサキ二番

南湖院

河野、高橋兩副長ハ目下當院ニ在勤、

院長診察、土曜日午後、入院、診察應需、

Digitized by Google

Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

新女界第四巻第十二號

大正元年十二月一日發行

明治四十二年三月廿九日第三種郵便物認可

見渡せば花も紅葉もなかりけり
何處もおなじ秋の夕ぐれ

さう云つた氣持も、ライオン齒磨を使つて、始終健康な體であれば心もおのづから愉快で、見る目に悲觀する程のものはありません。

家庭用の粉製――容器はいろいろ
旅行用の煉製――罐入と押出管入

發賣元 東京 大阪 名古屋 小林富次郎

定價金拾貳錢

東京市小石川區林町四拾參番地 新人社 振替口座東京一四〇〇五

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN